

令和4年度

事業報告書
決算報告書

公益財団法人 広島市みどり生きもの協会

目 次

第1 事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	2
3	理事会等の開催	4
4	定款の変更	4
5	職員の状況	5
6	事業の実施状況	6
7	事業報告の附属明細書	6 3

第2 決算報告書

1	貸借対照表	6 4
2	貸借対照表内訳表	6 6
3	正味財産増減計算書	6 7
4	正味財産増減計算書内訳表	7 1
5	財務諸表に対する注記	7 5
6	附属明細書	7 7
7	財産目録	7 8

事業報告書

第1 事業報告書

令和4年度公益財団法人広島市みどり生きもの協会事業報告書 (令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

緑のまちづくりの事業及び公園に関する事業を通して、ゆとりとやすらぎのある緑豊かな都市環境の形成及び市民の心身の健全な発達を図るとともに、生物多様性の保全に貢献し、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 概況

ア 設立年月日

昭和51年10月1日 財団法人広島市公園協会として設立

平成11年 4月1日 財団法人広島市動物園協会と統合

平成24年 4月1日 公益財団法人へ移行し、公益財団法人広島市みどり生きもの協会に名称変更

イ 基本財産

設立当初、基本財産は1,000万円（全額広島市出資）であったが、平成11年4月1日財団法人広島市動物園協会との統合に伴い、同財団から1,200万円を寄附受領し、また、広島市から9,000万円の追加出資があったことにより、現在の基本財産は、1億1,200万円（うち広島市出資1億円）である。

ウ 実施事業

- (ア) 緑化思想の普及啓発、民有地の緑化等緑のまちづくりの推進
- (イ) 広島市が設置する公園及び公園施設の管理運営及び利用の促進
- (ウ) 広島市が設置する動物公園、植物公園及び昆虫館の管理運営及び利用の促進
- (エ) 生きものに関する調査研究、教育及び普及啓発
- (オ) 前各号に関する附帯事業の運営
- (カ) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の人数

理 事 長	1 人
専務理事	1 人
常務理事	1 人
理 事	11 人
監 事	2 人
評 議 員	12 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令 和 4 年 6 月 1 3 日	理事長	及 川 享	退 任
	理事長	堀 敬 輔	就 任
	専務理事	工 藤 昭 利	就 任
	常務理事	南 心 司	重 任
令 和 4 年 1 0 月 2 6 日	理 事	石 田 源次郎	死 亡
令 和 5 年 3 月 2 8 日	理 事	山 口 祐	就 任
令 和 5 年 3 月 3 1 日	専務理事	工 藤 昭 利	辞 任
	常務理事	南 心 司	辞 任
	監 事	久 光 章	辞 任

イ 令和5年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
理 事 長	堀 敬 輔	令和 4 年 6 月 1 3 日
専務理事	工 藤 昭 利	令和 4 年 6 月 1 3 日
常務理事	南 心 司	平成 2 7 年 4 月 1 日
理 事	金 子 和 泰	平成 3 1 年 3 月 2 8 日
理 事	久保田 祐 徳	令和 3 年 4 月 1 日
理 事	高 橋 博	令和 2 年 9 月 1 日
理 事	竹 下 俊 治	令和 元 年 6 月 1 2 日
理 事	中 越 信 和	平成 1 7 年 7 月 1 日
理 事	中 原 裕 子	平成 2 7 年 6 月 1 0 日
理 事	松 本 幸 雄	平成 2 1 年 7 月 1 日
理 事	宮 崎 智 三	平成 2 9 年 3 月 2 8 日
理 事	山 口 富美夫	令和 元 年 6 月 1 2 日
理 事	山 口 祐	令和 5 年 3 月 2 8 日
理 事	渡 邊 一 雄	平成 1 7 年 7 月 1 日
監 事	神 田 敏 治	平成 1 9 年 7 月 1 日
監 事	久 光 章	平成 3 0 年 4 月 1 日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動はなし。

イ 令和5年3月31日現在の評議員は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	大 橋 啓 一	平成28年 6月 9日
評 議 員	尾 楠 美代子	平成26年 3月27日
評 議 員	眞 宅 成 光	平成24年 4月 1日
評 議 員	田 邊 朋 子	平成29年 6月14日
評 議 員	田 村 慶 一	令和 3 年 6月14日
評 議 員	富 川 久美子	平成28年 6月 9日
評 議 員	中 島 昌 子	平成24年 4月 1日
評 議 員	中 坪 孝 之	平成24年 4月 1日
評 議 員	福 田 博	平成30年 6月14日
評 議 員	藤 井 敏 男	平成24年 4月 1日
評 議 員	山 岡 裕 幸	平成29年 6月14日
評 議 員	吉 田 幸	平成30年 6月14日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和4年5月25日	令和4年度 第 1 回	1 令和3年度公益財団法人広島市みどり生きもの協会事業報告及び決算報告について 2 理事長、専務理事及び常務理事の自己の職務の執行状況の報告について 3 令和3年度における職員の職務に係る倫理の保持に関する状況及び職員の職務に係る倫理の保持に関して講じた施策に関する報告について	承認 終了 終了
令和4年6月13日 (決議の省略)	令和4年度 第 2 回	1 理事長の選定の決議について 2 専務理事の選定の決議について 3 常務理事の選定の決議について	選定 選定 選定
令和5年2月28日 (決議の省略)	令和4年度 第 3 回	1 令和4年度第2回評議員会の招集について	原案可決
令和5年3月28日	令和4年度 第 4 回	1 令和5年度公益財団法人広島市みどり生きもの協会事業計画及び収支予算について 2 令和5年度第2回評議員会の招集について 3 理事長、専務理事及び常務理事の自己の職務の執行状況の報告について	承認 原案可決 終了

(2) 評議員会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和4年6月13日	令和4年度 第 1 回	1 令和3年度公益財団法人広島市みどり生きもの協会決算報告について 2 理事の選任の決議について 3 令和3年度公益財団法人広島市みどり生きもの協会事業報告について	承認 選任 終了
令和5年3月28日	令和4年度 第 2 回	1 理事の選任の決議について	選任

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はなし。

5 職員の状況

令和5年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区 分		事 務 職 員						技 術 職 員						技能業務職員	非常勤職員	合 計
		部長級	課長級	課長補佐級	係長級	主事	小計	部長級	課長級	課長補佐級	係長級	技師	小計			
緑化管理部	経営企画課		1	1	2	5	9					2	2	1	0	12
	昆虫館				1		1		1		2	4	7		1	9
動物公園	管 理 課		1	1	2	2	6			1	0	4	5	3	16	30
	飼育・展示課					1	1		2	4	8	17	31		2	34
植物公園	管 理 課		1	1	3	1	6	1		1	1	2	5	1	1	13
	栽培・展示課								1	2	1	6	10		6	16
合 計			3	3	8	9	23	1	4	8	12	35	60	5	26	114

6 事業の実施状況

次の事業を実施した。

(1) 公益目的事業

① 緑のまちづくり〔公1事業〕

緑化思想の普及、啓発を図るとともに、市民の自主的な緑化活動を促進し、市民の生活にゆとりと安らぎを与え、健やかで潤いのある緑豊かな住みよいまちづくりを進めるため、次のとおり事業を実施した。

ア 緑化思想の普及啓発

(ア) グリーンフェア

名 称	時 期	場 所	内 容	入場者数
秋のグリーンフェア	10月29日 ～11月3日	植物公園	広島市等と実行委員会を組織し、見どころめぐりクイズラリーや花と緑の講習会などを行った。	9,718人

(イ) 広報普及

名 称	時 期	内 容	件 数
ホームページによる広報	通 年	ホームページにより、事業の紹介や催し物などの情報を提供した。	アクセス件数 124,695件
マスコミによる広報	通 年	新聞社を通じて、催し物などの情報を提供した。	6件

イ 民有地緑化の推進

(ア) 緑化講習会の開催

名 称	時 期	場 所	内 容	参加者数
初夏のハンギングバスケット作り	6月16日	中央公園 ファミリープール	ペンタス、コリウスなどを使用した初夏らしいハンギングバスケット作りを実演指導した。	12人
クリスマスにぴったりの寄せ植え作り	11月18日	中央公園 ファミリープール	ガーデンシクラメン、ポインセチアなどを使用したクリスマスにぴったりの寄せ植え作りを実演指導した。	15人
春の息吹を感じる寄せ植え作り	3月17日	中央公園 ファミリープール	ガーベラ、アリッサムなどを使用した寄せ植え作りを実演指導した。	15人

(イ) 緑のカーテン設置補助金などの交付〔緑化基金事業〕

名 称	時 期	内 容	交付件数等	
			件数	金 額
緑のカーテン設置補助金の交付	4月1日 ～5月20日	緑のカーテンの設置に要した費用の一部を補助金として交付した。	51 件	300,500 円
魅せる花づくり補助金の交付	5月1日 ～6月22日 9月1日 ～10月21日	民有地内で多くの人の目に触れる場所（道路に面した場所）において花づくりを行った費用の一部を補助金として交付した。	78 件	499,900 円
記念樹の贈呈	7月15日 ～8月31日	誕生、入学・卒業、成人、結婚など人生の記念の節目を迎えた者に記念樹（苗木）を贈呈した。	178 件	444,730 円

(ウ) 緑化指導者の派遣〔緑化基金事業〕

名 称	時 期	内 容	参加者数等
緑化指導者の派遣	通 年	緑化に精通した専門の指導者を講習会に派遣し、草花の寄せ植え、育て方などを指導した。	開催回数 40 回 参加者数 640 人

(エ) 出版物の発行〔緑化基金事業〕

名 称	時 期	内 容	発行部数
ハンドブック 「魅せる花、緑のカーテン つくりかたBOOK」	通 年	「緑のカーテン設置補助金」や「魅せる花づくり補助金」の利用促進を図り、広島市の推進する「花と緑の広島づくり」に協力するため、緑のカーテン、花壇等の作り方・楽しみ方をまとめたハンドブックを発行・配布した。	2,500 部

ウ 貢献者の表彰〔みどり生きもの協会賞基金事業〕

広島市みどり生きもの協会賞基金の運用益等をもって、次のとおり広島市みどり生きもの協会賞を贈呈した。

＜広島市みどり生きもの協会賞＞

受 賞 者	対象区分	功 績 概 要
世 羅 徹 哉 氏	実 務	永年にわたり広島市植物公園の事業に携わり、植物の多様性や魅力をわかりやすく伝える植栽整備を推進し来園者が憩い楽しめる公園づくりに取り組むとともに多くのラン科植物の収集展示を行うなど同園の地位の向上に多大な貢献をした。

② 動物公園の管理運営〔公2事業〕

広島市から指定管理者として指定（指定期間：令和4年4月1日～令和9年3月31日）を受けた広島市安佐動物公園における動物の飼育・展示、収集及び飼育管理、入園料の収受、施設の維持管理などを行い、入園者が施設を安全かつ快適に利用できるよう努めた。

新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用、手指消毒、三密回避などをお願いするとともに、手すりなど接触部分の消毒等を行った。期間中、台風14号の接近により、令和4年9月19日に臨時休園の措置を取ったが、この日、大雨の影響でラクダ舎前の園路が一部崩壊したため、引き続き、翌日20日も臨時休園とした。来園者に危険がないよう養生を行った上で21日から開園し、この被害に伴う応急復旧を28日及び30日に臨時休園して行った。さらに、12月23日及び24日についても大雪の影響により、臨時休園の対応をとった。休園中はSNSやホームページ等により、動物及び園内施設に関する情報発信を積極的に行うなど、再開時における利用促進につながる活動に取り組んだ。

また、他団体との連携や調査・研究の成果を生かして、生息域内保全と生息域外保全の両面から生物多様性の保全に貢献するとともに、社会教育への協力、学校教育活動の受入れやコンクールその他催し物の開催など各種事業を実施し、動物に関する知識及び動物愛護思想の普及、かん養並びに動物愛好者の育成を図った。

ア 動物の飼育・展示など

(ア) 動物の飼育・展示

〔展示場所等〕 主な展示動物		内 容
〔エントランスゾーン〕	アヌビスヒヒ	身体能力の高いアヌビスヒヒを群れで展示した。また、群れの中での社会性が観察できるよう、職員が開園時間中に餌やりを行った。
	フラミンゴ	拡張したフラミンゴの展示エリアに、コフラミンゴとオオフラミンゴを分けて展示し、両方の展示場に産卵場を作るなど繁殖に向けての整備を行った。
〔アフリカゾーンI〕	サバンナゾウ	隣接した場所で、マルミミゾウとの違いが分かる展示と解説を行った。現在、雄1頭の展示を続けている。
	マルミミゾウ	新たな雄個体1頭を導入し、雌の発情周期に合わせて同居をするなど国内初の繁殖に向けて取り組みを行った。また、マルミミゾウの希少性、能力や飼育技術について解説した。

〔展示場所等〕 主な展示動物		内 容
〔アフリカゾーンⅠ〕	ア ミ メ キ リ ン	第1期再整備工事が始まり放飼場を一時的に縮小したが、健康維持に留意しながら、雌雄別々の展示を行った。また、生態等について解説した。
	グラントシマウマ	第1期再整備工事が始まり放飼場を一時的に縮小したが、健康維持に留意しながら、雌雄別々の展示を行った。また、生態等について解説した。
〔アフリカゾーンⅡ〕	チ ー タ ー	敏捷で迫力ある動きをガラス越しに観察できる展示を行い、引き続き繁殖を目指した。
	ク ロ サ イ	間近まで寄ってくる迫力ある展示、生態等についての解説を行った。血統問題等を含め、将来に渡り安定的に展示を続けるため、海外からの雄の導入を目指した。
	ミーアキャット	穴掘りの様子や日光を浴びて立つ姿を観察できる群れ展示を行った。
〔サルのなかま〕	チ ン パ ン ジ ー	群れ展示を引き続き行うとともに、放飼場内部に設置した立体的な構造のタワーを生かし、身体能力や知能の高さが学べる展示を行った。
	マ ン ド リ ル	新たな雄を導入し、繁殖による群れ展示の充実を図った。また、「飼育係が動物解説」などでヒトとの能力や行動の違いについて解説した。
〔ピーちくパーク〕	ポ ニ ー	新型コロナウイルス感染防止対策のため、乗馬体験は中止し、展示のみ行った。
	〔わくわく広場〕 ヤギ、ヒツジ、 ミ ニ ブ タなど	わくわく広場を開放し、ふれあい体験を再開した。
	〔ふれあいスペース〕 テンジクネズミ、 ウ サ ギ	新型コロナウイルス感染防止対策のため、ふれあい体験は中止し、展示のみ行った。
	〔インコの森〕 大 型 イ ン コ 類	色鮮やかなヒワコンゴウインコ、ルリコンゴウインコ、コンゴウインコなどの大型インコ類の飼育・展示を行い、コンゴウインコにおいては繁殖を目指した。冬季には全国的な鳥インフルエンザの流行のため、展示を中止した。
	〔ことりの家〕 ベ ニ ス ズ メ 、 セイキチョウなど	多種の鳥類の繁殖を目指し、展示の充実を図った。冬季には全国的な鳥インフルエンザの流行のため、建物外側から観賞できる展示を行った。
	〔子育ての家〕 オオサンショウウオ、 ヒヨコ、ハツカネズミ	オオサンショウウオの幼生・幼体・成体の展示のほか、ヒヨコなどの誕生と成長の過程が観察できる展示を行った。
	フンボルトペンギン	二つのペアによる繁殖を目指し、繁殖技術の向上と群れ展示の充実を図った。

〔展示場所等〕 主な展示動物		内 容
〔はちゆう類館〕	〔1階〕 スローロリス、 コウモリ類など	照明を夜間は明るく昼間は暗く調整して、夜行性動物が活発に動き回る姿を観察できる展示を行った。スローロリスは繁殖の結果、親子での展示を行った。冬季には、開館以来使用している暖房システムの故障が続いたため一時閉館し、展示を中止した。
	〔2階〕 ニシアフリカコガタワニ、 ヘビなど	子どもに人気のあるワニやヘビなどの爬虫類のほか、特別天然記念物のオオサンショウウオを屋内展示した。冬季には、開館以来使用している暖房システムの故障が続いたため一時閉館し、展示を中止した。
〔リクガメ広場〕	リクガメ類	平成30年度に当園では初めて繁殖に成功し、順調に成育しているホウシャガメのほか、インドホシガメ、ケヅメリクガメ、アルダブラゾウガメなど、大小様々なリクガメ類の展示を行った。
〔アジアの草食動物〕	マレーバク	多雨林の環境で生息するマレーバクを展示し、生態や野生における現状について解説した。また、繁殖に向けて雌の導入を目指した。
	ブラックバック	半砂漠や乾燥した落葉樹林などに生息するブラックバックを展示した。順調に繁殖し群れ展示を引き続き行った。
〔日本の動物〕	キツネ、タヌキ、 アナグマなど	身近な動物について学ぶため、広島県内に生息するキツネ、タヌキ、アナグマなどを展示した。
	ツキノワグマ	中国山地に生息し、人間の社会行動によって生存が危ぶまれているツキノワグマを展示し、現状などを伝えた。
〔大鳥舎〕	サカツラガン、 オシドリなど	生息地である湿地や森林の河川に似せた環境で展示を行うとともに、導入や繁殖に取り組み、展示の充実を図った。また、広島市が行うネット張替等の工事に協力した。冬季には全国的な鳥インフルエンザの流行のため、展示を中止した。
〔西園〕	ユーラシアカワウソ	今後もユーラシアカワウソの展示の継続を目指し、ヨーロッパ系の雄個体1頭を導入した。国内では、当園個体が唯一の繁殖可能な中国系ペアにおいても、引き続き繁殖に取り組んだ。自動給餌機による餌やりタイムや解説を行った。
	レッサーパンダ	令和3年度に繁殖した2頭の子どものうち、1頭は次の繁殖に向け他園へ移動が決まり、手続きを進めた。また、「飼育係が動物解説」などで生態等について解説を行った。

〔展示場所等〕 主な展示動物		内 容
〔西園〕	シ フ ゴ ウ	雄1頭の展示を続けており、野生下における絶滅後、動物園での飼育下において種の保存が行われてきた象徴的な動物、希少動物であることなどについて解説や情報発信を積極的に行った。
	ニ ホ ン カ モ シ カ	令和3年度に導入した雌との新たなペアにより、引き続き繁殖に取り組み、展示の充実を図った。
〔肉食動物ゾーン〕	ラ イ オ ン	強化ガラス（レオガラス）により、迫力や威圧感が伝わる展示を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた「レオガラスお食事タイム」をSDGsにつながる屠体給餌を含む内容として再開した。
	ア ム ール ト ラ	強化ガラス（パンセラビュー）により、迫力や威圧感が伝わる展示を行った。平成30年度に導入した雄による繁殖を目指し、展示の充実を図った。
	ア ム ール ヒ ヨ ウ	強化ガラス（パンセラビュー）により、迫力や威圧感が伝わる展示を行った。国内最高齢の雌の健康状態に配慮した展示を行うとともに、新たな繁殖可能な個体の導入を目指した。

【動物の飼育展示数】

（令和5年3月31日現在）

区 分	種 類	点 数
哺 乳 類	57 種	575 点
鳥 類	37 種	611 点
爬 虫 類	31 種	226 点
両 生 類	4 種	332 点
魚 類	10 種	—
合 計	139 種	1,744 点

(イ) 動物の収集及び飼育管理

名 称	内 容																												
展示動物の維持及び種の保存	血統や余剰動物の管理を適切に行い、計画的な繁殖、ブリーディングローンなどにより、展示動物を適正に維持するとともに、保護が必要な動物を飼育し、種の保存を図った。																												
飼 育 下 繁 殖	絶滅危惧種や希少種とされている野生動物の繁殖を飼育下で行った。 【繁殖に成功した動物の一覧】 スローロリス、ナゴヤダルマガエル、インドホシガメなど																												
ブリーディングローン	所有権を移転することなく、他園と動物の貸出しや借入れを行うことで、効率的かつ効果的に繁殖を行った。 (単位：頭) <table><tr><td colspan="2"></td><td>哺乳類</td><td>鳥類</td><td>爬虫類</td><td>合計</td></tr><tr><td rowspan="2">4 年度 新規</td><td>借入</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><td>貸出</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>5</td></tr><tr><td rowspan="2">全体</td><td>借入</td><td>19</td><td>5</td><td>1</td><td>25</td></tr><tr><td>貸出</td><td>40</td><td>25</td><td>0</td><td>65</td></tr></table> 4 年度借入：ユーラシアカワウソ（ふくしま海洋科学館）、マルミミゾウ（秋吉台自然動物公園）、マンドリル（豊橋総合動植物公園） 4 年度貸出：ヒワコンゴウインコ（富山市ファミリーパーク）、マンドリル（東武動物公園）、ニホンカモシカ（神戸市立王子動物園、那須どうぶつ王国、多摩動物公園）			哺乳類	鳥類	爬虫類	合計	4 年度 新規	借入	3	0	0	3	貸出	4	1	0	5	全体	借入	19	5	1	25	貸出	40	25	0	65
		哺乳類	鳥類	爬虫類	合計																								
4 年度 新規	借入	3	0	0	3																								
	貸出	4	1	0	5																								
全体	借入	19	5	1	25																								
	貸出	40	25	0	65																								
動 物 交 換	余剰動物を他園と交換して、必要な動物を入手し、新しい血統を確保するための調整を行った。 【交換動物】ニホンカモシカ																												
血 統 登 録 ・ 血 統 管 理	（公社）日本動物園水族館協会が行う血統登録に参画し、希少種の血統管理の会議に出席するなど国内の希少種保全に協力した。ニホンカモシカやマンドリルの貸し出し、カワウソのヨーロッパ亜種の導入を行うなど他園館と協力して希少種の血統管理を行い、血縁の偏りを防いだ。																												
動物の飼育管理及び展示環境の改善	園内で飼育・展示する動物が健康で長生きできるよう飼育管理を行った。また、動物が本来持つ自然で多様な行動を引き出し、日々生き生きと暮らせるよう、展示環境の改善を行った。																												
飼 育 管 理	健康状態を良好に保つため、衛生的かつ栄養学的に適切な飼料の配合や給餌、必要に応じた診察や治療、飼育舎の衛生管理を行った。高病原性鳥インフルエンザ対策のため、一部の鳥類を隔離した。また、ネコ科の動物に感染する可能性のある重症熱性血小板減少症候群(SFTS)対策として、マダニ駆除のための薬剤散布や草刈を行った。																												
環境エンリッチメントの強化	展示動物の福祉向上のため、生息地の自然環境を考慮して、展示場に遊具や渡り木を設置するなど展示環境に工夫を加えた。																												

名 称	内 容
ハズバンダリー トレーニングの強化	拘束や麻酔などを行わなくても、健康診断や治療、様々なケアができるようにするため、飼育員の声や笛の音、手の動きなどの合図で特定の姿勢をとらせる訓練を行った。対象動物を広げるなど強化を図り、動物たちの身体的な負担やストレスを軽減した。

(ウ) 入園料の収受（利用料金制）

【入園状況】

区 分					入 園 者 数	使 用 料		
有 料 入 園 者	個 人		大人	18 歳以上 65 歳未満	510 円	152,950 人	78,004,500 円	
				65 歳以上	170 円	9,624 人	1,636,080 円	
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	170 円	2,764 人	469,880 円	
	年 間 パ ス ポ ー ト	購 入	大人	18 歳以上 65 歳未満	1,560 円	6,214 人	9,693,840 円	
				65 歳以上	510 円	484 人	246,840 円	
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	510 円	14 人	7,140 円	
		提 示	大人	18 歳以上 65 歳未満	—	20,793 人	— 円	
				65 歳以上	—	2,069 人	— 円	
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	—	26 人	— 円	
		団 体		大人	18 歳以上 65 歳未満	430 円	3,731 人	1,604,330 円
					65 歳以上	130 円	45 人	5,850 円
				小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	130 円	1,718 人	223,340 円
	優 待 割 引		大人	18 歳以上 65 歳未満	430 円	483 人	207,690 円	
				65 歳以上	130 円	21 人	2,730 円	
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	130 円	2 人	260 円	
	小 計					200,938 人	92,102,480 円	
減 免 等 入 園 者 (小・中学生、社会福祉施設、その他)					205,281 人	— 円		
合 計					406,219 人	92,102,480 円		

(エ) 利用促進

名 称	時 期	内 容	枚 数 等
年間パスポートの販売 (動物公園・植物公園・昆虫館共同事業)	通 年	より多くの方に動物公園の魅力に触れる機会を提供するため、植物公園・昆虫館と共通で利用できる年間パスポートを販売し、利用者に対するサービスの向上及びリピーターの確保を図った。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休園した日数については、利用期限を延長する対応を行った。	販売枚数 6,712 枚
優待利用券の販売	通 年	入園券引換券と飲み物引換券がセットになった優待利用券を主に企業・団体(福利厚生、景品など)に販売し、新たな入園者の獲得に努めた。	販売冊数 大人(65歳未満) 61 冊
広島市交通科学館との相互利用促進 (公財)広島市文化財団共同事業)	通 年	近隣施設の広島市交通科学館と協力して、相手施設の使用済の観覧券又は入園券提示者に団体割引料金を適用し、更なる利用者獲得を図った。	506 人
旅行業者と連携した観光客の誘致	通 年	入園者誘致のため、旅行業者が発行するクーポン券利用による入園料の後納の取扱いを行うとともに、当園の広報宣伝を旅行業者に委託した。	1 件
アニマルカードの進呈	通 年	天候不順日の来園者を対象に、オリジナルアニマルカードを進呈し、更なる入園者の獲得に努めた。	5,224 枚
外国人観光客誘致の促進	通 年	新たな顧客層となる外国人観光客の誘致のため、リーフレットの多言語化やホームページの英語版の作成に取り組んだ。また引き続き、観光案内所等を通じて、英語や中国語のリーフレットを配布した。	平和記念公園レストハウス観光案内所、 JR広島駅南口観光案内所、広島バスセンター など
休 園 日 の 開 園	5月2日 8月10日 11月2日 2月22日 3月30日	春休み、ゴールデンウィークにおける休園日及び祝日と重なる場合の前日の振替休園日を開園し、利用者に対するサービスの向上及び入園者の増加を図った。	3,220 人 464 人 1,922 人 427 人 1,427 人 計 7,460 人
がんばれカープ!カープミニ新幹線に乗ろう	5月22日	展望広場で広島東洋カープから寄贈されたミニ新幹線を走らせ、ファミリー層の利用促進を図った。	100 人
宮島水族館との連携	7月16日 ～3月31日	宮島水族館と連携した合同PRイベントやクイズラリー等を実施し、観光客の増加を図った。	《スタンダリー参加》 安佐動物公園 2,577 人 宮島水族館 3,854 人

名 称	時 期	内 容	枚 数 等
夜 間 開 園 (ナイト・サファリ)	8月13日 8月14日 8月20日 8月21日 8月27日 8月28日 9月3日 9月4日	昼間とは異なる動物たちの生態を観察できるよう、園内のライトアップし、動物公園の魅力を向上させ、入園者の増加を図った。	夜間入園者数 (16時以降の入園者数) 5,327人 4,193人 2,479人 4,459人 6,247人 4,075人 3,799人 3,979人 計 34,558人
安 佐 動 物 公 園 ウオーキング大会 (安佐北区役所共同事業)	10月15日	シニア層を対象に、動物や植物など園内の自然に親しみながら歩く、ウオーキング大会を開催した。	91人
お 客 様 感 謝 デ ー	1月9日 2月11日	日頃の利用に感謝して、閑散期である冬期の祝日2日を入園料無料の日とし、入園者サービスの向上並びに入園者数及び収入(駐車料など)の増加を図った。	2,662人 3,750人 計 6,412人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 「ポニー体験乗馬」ポイントカードの発行、電動カートの運行			

(オ) 施設の維持管理・園内サービス

名 称	時 期	内 容
施 設 の 維 持 管 理	通 年	入園者に安全・快適な観察環境を提供するため、園内の清掃・警備を行った。動物の排泄物については、園内で堆肥化した上で、農家に提供した。また、動物舎などの建物や機械・電気などの設備を良好な状態で利用できるよう維持管理や小規模修繕を行った。
利 用 案 内	通 年	入園者が快適に観察できるよう、標識、リーフレット(外国人向けのものを含む)や園内放送などにより利用案内を行った。
緊 急 時 等 の 対 応	通 年	傷病者の救護、迷子の捜索・保護、拾得物・遺失物の管理などを行った。
園 内 情 報 の 提 供	通 年	園内の各所に工夫を凝らした展示解説板やクイズボード等を設置し、動物に関する知識の普及を図った。また、園内イベント情報を掲示し、今日の見どころを紹介した。
スマートフォン等用 園内ガイドアプリの活用	通 年	スマートフォンやタブレット用のオリジナルアプリを活用し、入園者の利便性の向上や動物に関する知識の普及を図った。(ダウンロード件数 2,035件)

(カ) 施設の機能充実

名 称	時 期	内 容
みどり生きものサポーター・安佐動物公園募金等による施設の機能充実	通 年	動物福祉向上のための環境づくりを行うため寄附金を募った。寄附金は次年度以降に繰り越し、動物福祉向上のための施設等に充てていく予定である。

イ 生物多様性の保全

(ア) 他団体との連携

名 称	時 期	内 容	回 数 等
日動水の種保存に関する会議への参加	通 年	(公社)日本動物園水族館協会の種保存に関連した会議(Web会議含む)に参加し、種保存(繁殖)計画の検討及び調整を行った。	9 回
希少動物の保護	通 年	(公社)日本動物園水族館協会からの受入れ要請に基づき、ワシントン条約違反の任意放棄動物を保護した。	12 点
姉妹動物園との交流	通 年	ホノルル動物園と種の保存を目的とした技術交流等を行い、飼育や繁殖技術の向上を図った。	1 件
日本オオサンショウウオの会の活動	6 月	オオサンショウウオの生息地で開催された朝来大会に参加し、保護活動に必要な情報を交換した。	1 件

(イ) 生息域内保全

名 称	時 期	内 容	回 数
生息地における絶滅危惧動物の保全	通 年	北広島町志路原地区や世羅町小谷の保全団体などとの協働により、オオサンショウウオやナゴヤダルマガエルなど、絶滅に瀕した野生動物の保全活動を行った。また、安佐北高等学校の校舎や広島大学歯学部校舎に生息するオヒキコウモリの個体群の調査を行った。	オオサンショウウオの 野外調査 15 回 ナゴヤダルマガエルの 野外調査 5 回

(ウ) 生息域外保全

名 称	時 期	内 容	件
生息域以外における絶滅危惧動物の保全	通 年	国の特別天然記念物であるオオサンショウウオ、希少種であるオヒキコウモリ、キクガシラコウモリやヤマコウモリの飼育、ハヤブサの飼育下繁殖、繁殖行動の調査などに取り組んだ。また、広島県から保護管理業務を受託したナゴヤダルマガエルの飼育、繁殖及び放流等を行った。	6 件

(エ) 動物に関する調査・研究等

名 称	時 期	内 容
動物に関する調査・研究	通 年	園内の動物や県内の野生動物の生態などについて調査・研究を行い、飼育技術の確立や生息域内・域外保全の推進に努めた。 1 将来の展示に向けた調査・研究 〔短期的取り組み〕 ・マルミミゾウ舎の建設及び新キリン・シマウマ舎の実施設計において、動物の生態・行動、飼育方法や、構造に関する専門的な情報を提供するなど広島市に協力した。 〔中・長期的取り組み〕 ・キクガシラコウモリ等の小型哺乳類の飼育技術の確立のための飼育施設環境整備を行った。 ・園内に生息しているホンドギツネやムササビの行動について随時調査するとともに、入園者の観察に適したポイントについての研究を行った。 2 繁殖に関する調査・研究 ・他園への聞き取り調査等を行い、チーター、レッサーパンダ等の繁殖に関する調査・研究を行った。 ・希少種であるオヒキコウモリ、ヤマコウモリ、飼育困難種であるキクガシラコウモリ、ニホンノウサギの繁殖に取り組んだ。
各 種 資 料 の 収 集	通 年	Journal of ZOO and WILDLIFE MEDICINE など動物に関する書籍・雑誌・資料を収集し、繁殖などの調査・研究に役立てた。
写真・動画などの制作	通 年	シマウマやニホンカモシカの搬出作業の様子などを写真・動画等に収録し、飼育技術の向上、継承及び調査・研究に役立るとともに、市民に情報を提供した。

名 称	時 期	内 容
学会・研究会への参加	通 年	新型コロナウイルス感染拡大防止への対応が緩和され、Web 形式、対面のハイブリッドなど様々な形での開催となり、(公社)日本動物園水族館協会中国四国ブロック動物園技術者研究会及び中国四国野生動物医療・看護勉強会(11月、3月)に参加した。日本動物園水族館協会の総会では技術研究表彰講演を、技術者研究会では課題講演・研究発表を行った。
オオサンショウウオの調査研究・成果の公開	通 年	大学・博物館等との共同により、オオサンショウウオの調査研究を推進した。その成果を公開するシンポジウムを対面及びWeb配信のハイブリッド形式で開催した。 [シンポジウム参加者 56人] [Web配信参加者 120人]
研究活動発表会 (動物園・植物園・昆虫館共同事業)	2月4日	飼育展示活動や調査研究活動などの成果を市民に情報提供した。今年度初めて5-daysこども文化科学館にて開催した。 (参加者 28人)

(オ) 野生動物の救護

名 称	時 期	件 数 等			
野 生 動 物 の 救 護	通 年	哺乳類	5 件	5 種	8 点
		鳥 類	29 件	18 種	33 点
		爬虫類	2 件	2 種	2 点
		両生類	0 件	0 種	0 点
		計	36 件	25 種	43 点

ウ 教育・普及

(ア) 社会教育への協力

名 称	時 期	内 容	件 数 等
動物レクチャー・体験型環境学習プログラム	通 年	社会人を対象に、動物科学館2階ホールや動物展示場前において、随時、動物の生態や特徴についての話や体験学習を行った。	1 件 13 人 (広島アニマルケア専門学校)
クイズ形式ワークシートの園内配布	通 年	クイズ形式のワークシートを年齢層別・テーマ別に作成し、園内で配布することにより動物への関心や興味を喚起する機会を提供した。	配布枚数 8,000 枚
動物クイズラリーの助成	通 年	遠足時に行うクイズラリーの相談を受けるほか、スタンプの貸出しを行った。	14 件
講演会・研修会への講師の派遣	通 年	団体からの要請に基づいて調整し、職員を講師として派遣した。	6 件

名 称	時 期	内 容	
教材資料の作製・貸出し	通 年	作製した標本などの教材資料を学校などに貸し出した。	39 件 99 点 利用者 4,127 人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 びーちくパークにおけるふれあい指導、実習生の受入れ、専門学校と連携したイベント実習			

(イ) 学校教育への協力

名 称	時 期	内 容	件 数
理 科 教 育 で の 連 携	通 年	講師の派遣、園内における体験学習、情報提供等により、近隣にある日浦小学校の理科教育の実施に協力した。	4 件
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 出前講座、教材生物バザールへの参加			

(ウ) 市民・団体との協働

名 称	時 期	内 容	人 数 等
動物解説ボランティア	通 年	動物解説ボランティアを募集・育成し、園内での動物解説の充実を図った。 (解説ボランティア登録人数：53人)	活動延べ人数 299 人
作 業 ボ ラ ン テ ィ ア	通 年	作業ボランティアを募集・育成し、園内の花壇等の植え替えや管理などを行った。 (作業ボランティア登録人数：41人)	活動延べ人数 632 人
ボ ラ ン テ ィ ア と の 共 同 イ ベ ン ト	通 年	ボランティア主催のイベント「フェルトでゆきだるま」、「ナイトガイド」を支援し、また、安佐動物公園主催のイベントへの協力を受けた。	4 件 (ナイトガイド、フェルト、かるた、ぬり絵)
H a p p y B u s 停 プ ロ ジ ェ ク ト (呉工業高等専門学校)	通 年	公共交通機関利用による来園と近隣団地のバス路線の利用促進を図るため、学生が近隣団地などと連携して進めてきた動物園前バス停のパネルや園内売店前の時刻表等バス情報の更新などを行った。	1 件

名 称	時 期	内 容	人 数 等
大学・専門学校等 との協働	通 年	大学・専門学校等と動物公園との相互協力により共同研究などを行った。	麻布大学 1 件 大阪産業技術研究所 1 件 岡山理科大学 1 件 神奈川県立博物館 1 件 北里大学 1 件 岐阜大学 1 件 九州大学 1 件 京都大学 2 件 神戸大学 1 件 国立科学博物館 1 件 女子美術大学 1 件 東京大学 1 件 東京農工大学 1 件 長浜バイオ大学 1 件 広島大学 3 件 北海道大学 2 件 明治学院大学 1 件 山口大学 2 件 計 23 件
鹿角ストラップづくり ((公財)広島市文化財団)	4月29日	シカの角を使った縄文風のオリジナルストラップ作りを体験するとともに、市内で発掘された動物に関する出土品を展示した。	イベント参加者数 132 人
お芝居「みどりのサンちゃん」 (劇団くむくむ)	6月4日	オオサンショウウオのサンちゃんと森の仲間たちをテーマに、紙芝居とは一味違うお芝居を行った。	イベント参加者数 103 人
サンちゃんの日警察署長 (安佐北警察署)	7月10日	夏の交通安全運動に合わせて、安佐動物公園のマスコット「サンちゃん」の着ぐるみが「一日警察署長」として交通安全に関する啓発を行った。	イベント参加者数 120 人
ドリームナイト・アット・ザ・ズー (ジブラルタ生命保険㈱)	8月6日	障害を持つ子どもやその家族等を夜の動物園に招待した。	参加者数 3,387 人
特殊詐欺被害防止 キャンペーン (広島市、広島県警察)	9月23日	クイズラリー等を通して、父母や祖父母と一緒に被害防止について考えるイベントを開催した。	クイズラリー参加者 100 人 入園者数 2,770 人
防災の日関連イベント (中国地方整備局・ 広島県土木建築局・ 広島市危機管理室)	9月25日	9月1日の防災の日になみ、動物と気象・防災に関するイベントを開催した。	入園者数 3,679 人

名 称	時 期	内 容	人 数 等
動物園で計量記念日 (広島市計量検査所・ (一社)広島県計量協会・ 広島市計量協会)	10月30日	11月1日の計量記念日にちなみ、 動物の体重や長さなどについてクイ ズを行いながら解説を行った。	イベント参加者数 120人
アフリカ音楽コンサート 「マルミミゾウのダイくん とメイちゃんへ、 アフリカの大地 からの贈り物」	11月3日	マルミミゾウのダイくんとメイちゃん が生まれたブルキナファソ(西ア フリカ)出身アーティスト等による コンサートを開催した。	イベント参加者数 103人
サンちゃんの一 日消防隊長 (安佐北消防署)	11月6日	秋の全国火災予防運動に合わせて、 安佐動物公園のマスコット「サンち ゃん」の着ぐるみが「一日消防隊 長」として、火災予防に関するパフ ォーマンスを行った。	イベント参加者数 40人
広島市立大学芸術 学部の作品展示 (広島市立大学)	1月7日 ～1月18日	広島市内で唯一芸術学部を有する広 島市立大学の学生の作品発表の場と して、園内の動物を描いた絵画など の作品を展示した。	展示作品数 24点
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 生きものスタジアム(仮称)(㈱広島東洋カープ)、がんばれサンフレッチェ広島どうぶつ広場(㈱サ ンフレッチェ広島)、わくわく動物園!夏休み思い出づくり(サンスター㈱)、秋のグリーンフェア いきものランド			

(エ) 広島動物愛好会の活動

会員内訳(個人会員:119人、家族会員:32家族116人、賛助会員:6社)

名 称	時 期	内 容	参加者数等
広島動物愛好会例会	4月10日	講話「猛禽ってなに?+ASAZOOの猛禽 たち」、園内見学	34人
	6月12日	講話「カワウソ来園!中国系?ヨーロ ッパ系?～これまでこれから～」、園 内見学	45人
	8月14日	講話「インドホシガメと爬虫類のふた ごのはなし」、園内見学	27人
	10月9日	講話「古賀賞受賞!ケープハイラッ クス飼育の歩み」、園内見学	33人
	12月11日	講話「十大ニュース」	41人
	2月12日	講話「卯年にノウサギのお話」、園内 見学	29人
会 誌 の 発 行	年6回	愛好会の活動や動物公園の出来事な どを載せた会誌「ズーミング」を発 行した。	各回 200部

名 称	時 期	内 容	参加者数等
す づ く り の 送 付	年 4 回	動物公園の出来事などを載せた機関紙「すづくり」を会員に送付した。	各回 200 部
自 然 観 察 会	8月27日	動物公園内動物科学館でコウモリについて解説した後、ゾウ舎裏園路でコウモリの観察を行った。 (場所 安佐動物公園内)	14 人
	10月1日	広島市佐伯区八幡川河口と人工干潟でカモやシギなどの野鳥を観察した。 (場所 広島市佐伯区)	15 人

(オ) コンクールその他催し物の開催

a コンクール

名 称	時 期	内 容	応募点数等
動物作文・詩コンクール	7月1日 ～9月10日	小・中学生を対象に、動物に関する作文・詩を募集し、優秀作品を表彰した。	応募 913 点 入選 136 点
動 物 画 コ ン ク ー ル	7月1日 ～9月10日	園内の動物や風景を題材とした動物画を募集し、優秀作品を表彰した。	応募 2,866 点 入選 388 点
安佐南区子ども会連合会 写 生 大 会 (安佐南区子ども会連合会共催)	8月19日	動物を題材とした写生大会を安佐南区子ども会連合会と共催実施し、優秀作品を表彰した。	応募 140 点 入選 54 点
動 物 写 真 コ ン ク ー ル	9月2日 ～11月30日	園内の動物を題材とした写真を募集し、優秀作品を表彰した。	応募 219 点 入選 23 点
動物たちと消防の写生大会 (安佐北区子ども会連合会・安佐北消防署共催)	3月5日	動物と消防車を題材とした写生大会を安佐北区子ども会連合会・安佐北消防署と共催実施し、優秀作品を表彰した。	応募 277 点 入選 40 点

b 観察会

名 称	時 期	内 容	参加者数
ビオトープで生きもの観察	4月24日	園内のビオトープでカエルや昆虫など身近な生き物を観察した。	60 人
あおぞら自然観察会 (動物園・植物園・昆虫館共同事業)	5月8日	自然に関する理解を深めるため、広島遊学の森(広島県緑化センター)で動・植物や昆虫の観察会を実施した。	8 人
ダルマガエル観察会	5月29日	園内において生息域外保全しているダルマガエルを観察した。	120 人

c 動物教室その他催し物

名 称	時 期	内 容	参加者数等
動物公園春まつり	4月17日 ～5月3日	春の行楽シーズン中の土・日曜日、祝日に様々な催し物を実施し動物に関する知識の普及と、入園者の増加を図った。	入園者数 20,598人
飼育の日イベント	4月17日	4月19日の「飼育の日」にちなみ、飼育係の仕事を紹介するパネル展示を行った。	入園者数 3,765人
世界バクの日イベント	4月27日	4月27日の「世界バクの日」にちなみ、マレーバクについて解説やパネル展示を行った。	缶バッチ配付 100個
ヒツジの毛刈り	5月1日	ヒツジの毛刈りを行い、その様子を一般公開した。	各300人 (2回)
スマートフォンアプリダウンロード促進イベント	5月3日	オリジナルアプリのダウンロードを促進するため、ダウンロードした来園者に景品を進呈した。	262人
世界カワウソの日イベント	5月25日	5月の最終水曜日の「世界カワウソの日」にユーラシアカワウソについて解説やパネル展示を行った。	缶バッチ配付 100個
オウム・インコデー	6月12日	6月15日のオウム・インコデーにちなみ、希少動物であるインコについて解説やパネル展示を行った。	缶バッチ配付 100個
世界キリンの日イベント	6月19日	6月21日の「世界キリンの日」にちなみ、アミメキリンについてパネル展示を行った。	缶バッチ配付 100個
どうぶつウンチ研究室	7月3日	様々な動物のウンチを観察し、それぞれの違いや体の仕組みについてパネル展示を行った。	入園者数 948人
動物たちの暑中見舞い	7月23日	大暑に、氷やスイカなどを動物に与えた。	100人
夜の動物園で動物観察 (寄附者対象)	8月6日	夜の動物園に招待し、動物たちの夜間特有の行動を解説する観察会を行った。	229人
動物公園秋まつり	9月17日 ～11月27日	秋の行楽シーズン中の土・日曜日、祝日に様々な催し物を実施し、動物に関する知識の普及と、入園者の増加を図った。	入園者数 111,582人
レッサーパンダの日 イ ベ ン ト	9月17日	第3土曜日の「国際レッサーパンダデー」にちなみ、レッサーパンダについて解説した。	70人
世界サイの日 イ ベ ン ト	9月24日	世界サイの日にちなみ、クロサイの生態や野生下でのサイの現状などについて解説した。	50人

名 称	時 期	内 容	参加者数等
Z O O トーク (飼育係と動物トーク)	10月2日 10月23日	飼育の苦労話、動物のこぼれ話からサイエンスに関する話まで幅広い話題について、トークショーを行った。	各140人 (2日)
S D G s クイズ大会	11月23日	広島観光親善大使を招き、動物とSDGs に関係するクイズ大会を行った。	25人
サンちゃんデー	11月27日	オオサンショウウオについてパネル展示を行った。	入園者数 3,502人
マルミミゾウについて もっと知ろう！ ～マルミミゾウ特別解説～	10月3日	新設したマルミミゾウ舎内部を案内し、日本国内に2頭しかいない希少なマルミミゾウについて解説した。	各20人 (2回)
小学生の飼育体験教室	10月22日 10月29日	小学校4～6年生を対象に、飼育実習を行い、動物の飼育方法や暮らしについて学ぶ機会を提供した。	28人 32人 計 60人
おとなの飼育体験教室	11月26日	野生動物への関心を深めるため、飼育実習と講義を行った。	19人
動物公園冬まつり	12月3日 ～2月28日	冬季の土・日曜日、祝日に様々な催し物を実施し、動物に関する知識の普及と、入園者の増加を図った。	入園者数 55,246人
動物園でしめ飾り 作り体験	12月10日	お正月に向けて、日本固有の文化であるしめ飾り作りを行う体験イベントを開催した。	30人
もうすぐクリスマス 安佐動物公園から プレゼント	12月18日	広島東洋カープの中村健人選手を招き、クリスマス前に、安佐動物公園のオリジナルグッズ等のプレゼントが当たる抽選会を開催した。	120人
干支の動物缶バッジを プレゼント	1月2日 1月3日	正月に、干支の動物「卯」(ウサギ)をデザインした缶バッジを入園者にプレゼントした。	缶バッジ配付数 各回200個
新春動物かるた で遊ぼうよ！	1月8日	安佐動物公園の展示動物の特徴を紹介したオリジナル動物かるたを使ったかるた取りを開催した。	40人
動物園で どうぶつぬり絵	1月15日	動物の模様などのぬり絵を通じて、動物に関する知識の普及を図った。	100人
まんが動物園	2月1日 ～2月28日	飼育係が動物の特徴や生態などをまんが解説パネルで紹介した。	期間中入園者数 23,120人

名 称	時 期	内 容	参加者数等
動物まんが クイズラリー	2月12日 2月19日 2月26日	飼育係が描いたまんが解説パネルを 題材にしたクイズラリーを開催し た。	450人 220人 430人 計 1,100人
親子動物教室	3月12日	親子を対象に、標本や観察を通して 動物の生態や暮らしについて学ぶ機 会を提供した。	10組 20人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 動物愛称募集、バックヤードガイド、サンちゃんツアー、マルミミゾウ来園キャンペーン、動物 脱出対策公開訓練 【台風により中止した事業】 動物たちの敬老の日			

d 講演会

名 称	時 期	内 容	参加者数
野生動物シンポジウム ー DNA が教えてくれる ツキノワグマ ー	3月19日	西堀正英氏（広島大学教授）他4名 のパネリストによる環境DNAから得 られた野生のツキノワグマに関する 講演などをシンポジウム形式で開催 した。	34人
動物講演会 「野生のマルミミゾウのいま」	3月21日	西原智昭氏（星槎大学教授、国際野 生生物保全 NGO WCS（自然環境保全） 研究員）を招き、現地でマルミミゾ ウの役割や、日本文化との関わり合 いなどをテーマとした講演会を開催 した。	33人

(カ) 学校教育活動の受入れ

名 称	時 期	内 容	参加者数等
進路総合学習の受入れ	通 年	中学校や高等学校の進路総合学習の 一環として行う職場見学を受け入れ た。	7月日浦中 47人 2月新潟高志中 3人 計 2件 50人
動物レクチャー・体験型 環境学習プログラム	通 年	小・中・高校生を対象に、動物科学 館2階ホールや動物展示場前におい て、随時、動物の生態や特徴につい ての話や体験学習を行った。	幼 3件 94人 小24件 1,436人 中 2件 193人 特別1件 3人 計30件 1,726人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 なかよし動物教室、職場体験の受入れ			

(キ) 企画展その他展示会の開催

名 称	時 期	内 容
動物写真コンクール 入 賞 作 品 展	4月23日 ～5月29日	前年度の「動物写真コンクール」の入賞作品を展示した。
企 画 展 示 「マルミミゾウ展」	7月16日 ～10月2日	国内に2頭しかいないマルミミゾウの希少性や生態、マルミミゾウ舎の着工から完成までの経過、新たな雄の輸送の様子などについてパネルで紹介した。
動物画コンクール 入 賞 作 品 展	11月5日 ～11月27日	「動物画コンクール」の入賞作品を展示した。
企 画 展 示 「動物園のつぶやき展」	2月23日 ～3月12日	安佐動物公園の公式SNSに投稿された写真とその時の飼育係のつぶやきをパネルにして展示した。 (市民から公募した、動物や自然に関する写真、絵画、創作物などの作品を展示する。)
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 動物たちと消防の写生大会入賞作品展		

(ク) 広報普及

名 称	時 期	内 容	件 数 等
マスコミによる広報	通 年	テレビ局、ラジオ局、新聞社、出版社、旅行ガイド誌社などを通じて、催し物や赤ちゃん誕生などのトピックスを広報した。	広報件数 84 件 取材件数 205 件 《取材件数の内訳》 テレビ 137 件 ラジオ 7 件 新 聞 52 件 その他 9 件
催し物案内ポスター・ P R 用チラシの配布	通 年	公共施設、観光事業所、商業施設や新聞折り込みを利用して、動物園の催し物案内ポスターやP R 用チラシを配布した。	765 か所
動物写真パネルの貸出し	通 年	動物の写真パネルを公共施設や事業所などに貸し出し、これらの場所を動物園のP R の場とし	8か所 160 点
ホームページによる広報	通 年	ホームページにより施設の紹介、催し物、赤ちゃん誕生などの最新情報を提供した。	お知らせ 50件 イベント 63件 計 113件
Twitterによる広報	通 年	情報共有力・拡散力の高いTwitterにより、施設、イベントなどの魅力ある情報を発信した。	投稿件数 597 件

名 称	時 期	内 容	件 数 等
公 共 交 通 機 関 利 用 者 へ の P R	通 年	アストラムライン新白島駅構内の掲示板に、安佐動物公園のイベント案内ポスターを掲出し、駅利用客の誘客を図り、動物園のPR活動を行った。	3 件
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 近隣県市町広報、動物レクチャー・体験型環境学習プログラムの普及、観光事業所との連携、動物解説広場の実施、マスコットキャラクターを利用したPRの実施、保育園・幼稚園・小学校へのPR、近隣団地へのPR			

(ケ) 出版物の発行

名 称	内 容	発行部数
「す づ く り」 「年 報」	各種の出版物を発行、配布し、動物に関する知識の普及や動物園事業の周知を図った。「年報」についてはホームページ上で公開した。	すづくり 4 回 計 4,400 部

(コ) 動物に関する相談

名 称	時 期	件 数
動 物 相 談	通 年	飼育相談 24 件 野生動物の救護 46 件 引取依頼 44 件 有害鳥獣の駆除対策 31 件 その他一般相談 91 件 計 236 件

③ 植物公園の管理運営〔公2事業〕

広島市から指定管理者として指定（指定期間：令和4年4月1日～令和9年3月31日）を受けた広島市植物公園における植物の栽培・展示、収集及び栽培管理、入園料の収受、施設の維持管理などを行い、入園者が施設を安全かつ快適に利用できるよう努めた。

新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用、手指消毒、三密回避などをお願いするとともに、手すりなど接触部分の消毒等を行った。なお、令和4年9月6日、9月19日は台風接近に伴い臨時休園した。

また、他団体との連携や調査・研究の成果を生かして、生息域内保全と生息域外保全の両面から生物多様性の保全に貢献するとともに、社会教育への協力、学校教育活動の受入れや講座その他催し物の開催など各種事業を実施し、植物に関する知識及び植物愛好心の普及、かん養並びに植物愛好者の育成を図った。

ア 植物の栽培・展示など

(ア) 植物の栽培・展示

〔展示場所〕 主な展示植物	内 容
〔大温室〕 ヤシ、ラン、オーストラリア バオバブ、熱帯果樹など	熱帯の水辺、花、果実などにゾーニングしたエリアに約700種類5,000株の亜熱帯、熱帯植物を植栽し、立体交差や通路から観賞しやすい効果的な展示を行った。最高部が21mある温室の大きさを活かし、巨大な熱帯植物が醸し出す熱帯の雰囲気を感じられる展示を行った。また、シンボルツリーとして導入した国内最大のオーストラリアバオバブを展示し、10月にタッチングイベントを行った。
〔サボテン温室〕 サボテンなど	サボテン類や多肉植物約320品種500株を科ごとに分け、説明板や写真パネルをつけて展示した。乾燥地に適応した特異な形態や植物の適応戦略の面白さを知ること、生きものに対する興味の高揚を図った。
〔熱帯スイレン温室〕 熱帯スイレンなど	1年を通じ多彩で美しい花を咲かせる約50品種100株の熱帯スイレンを植栽し、エキゾチックな憩いの空間を提供した。また、子どもに人気の高いウツボカズラやハエトリグサなどの食虫植物を、模型や解説パネルを交えて展示し、植物に興味を抱くきっかけ作りの場とした。
〔ベゴニア温室〕 球根ベゴニアなど	冷暖房と電気照明設備を活用し、世界で最も美しい花の一つと言われる球根ベゴニアを周年開花させ、約680品種2000株の様々なベゴニアとあわせて展示を行うことで、季節を問わず美しい花を楽しむことのできる癒しの空間を提供した。また、球根ベゴニアの生育過程を解説展示することで、植物を育てることに興味を抱く機会を提供した。

〔展示場所〕 主な展示植物	内 容
〔フクシア温室〕 フクシア、野生ランなど	風鈴のようにチャームな花を咲かせるフクシア約140品種230鉢を周年展示し、非日常的な植物の美しさを楽しむ場とした。また、野生ランコーナーでは、解説パネルなどを交えて展示し、ランの不思議な世界を観賞できる機会を提供した。
〔カスケード〕 パンジー、ペチュニアなど	入園口から入って正面の大階段にはプランターやコンテナ、ハンギングバスケットを設置し、季節を代表する草花を展示して来園者を出迎えた。
〔展示温室〕 ゼラニウムなど	植物公園が保有する世界のラン、ゼラニウム、イワタバコの仲間、食虫植物、薬用植物などや、近郊の愛好家が出品するエビネ、セッコク・長生蘭、ウチョウラン、サボテンなど、季節にふさわしい植物を年間18回展示した。
〔芝生広場〕 サクラなど	入園者の憩いの場、語らいの場のほか、子どもの遊び場として利用した。また、周辺にはサクラ類、マンサク、ロウバイ、ツツジなどの花木類を植栽・展示した。
〔花の進化園〕 スイレン科、ユリ科、 キク科、ラン科など	入園者が実物を観察しながら、花の進化について理解を深めることができるよう、種子植物を科ごとにまとめて植栽し、分類や進化の説明をつけて展示した。また、被子植物は最近の主流であるAPG分類体系へ移行し、理解を深める工夫をした。（APGとは、Angiosperm Phylogeny Group（被子植物系統グループ）の略で、葉緑体DNAの解析から植物の類縁関係を決定し分類したものである。）
〔屋外展示場〕 クレマチス、山野草など	愛好家が栽培しているクレマチス、山野草のほか、植物公園が収集したサクラソウ、アジサイ、中国ギクなどを展示した。
〔ロックガーデン〕 うらら池散歩道 里山の野草園 セツブンソウ、ヒゴタイ、 ヤチシャジンなど	野生植物の多様な姿や絶滅に瀕している植物を中心に紹介することで、環境保全に対する関心を促した。特に、ロックガーデンには、高山や海岸などといった厳しい環境にも生育する種を、うらら池散歩道沿いや里山の野草園では、主に広島県内の里山環境に自生する種を紹介した。
〔日本庭園周辺、うらら池湖畔〕 アジサイ	うらら池周辺にアジサイを順次追加植栽し、既存の日本庭園周辺とあわせてアジサイをめぐる回廊をつくり、梅雨頃の魅力アップを図った。
〔バラ園〕 バラ	広島市に寄贈された品種、野生種、オールドローズや古花と呼ばれる希少な園芸品種の植栽展示に力を入れることで他のバラ園との差別化を図り、遺伝資源の保全に貢献した。また、新品種も配置し、バラに包まれたくつろぎの空間を提供するとともに、つるバラ用フェンスを新設し、空間を利用したバラ園の景観向上を行った。

〔展示場所〕 主な展示植物	内 容
〔ツバキ園〕 ツ バ キ など	日本が世界に誇る園芸植物の一つであるツバキを植栽・展示した。周囲には、サザンカ類、ヒメシヤラなどの野生種や、タイワンフウ、イロハモミジ、ニッサなど紅葉の美しい樹木を植栽し、秋から冬にかけての見どころとした。また、フジバカマなどチョウを呼び寄せる植物を植栽し、バタフライガーデンとして憩いの空間を提供した。
〔日本庭園〕 ウメ、ハナショウブ、 ア ジ サ イ など	本格的な茶室を中心に、和風の植物を植栽し、落ち着いた雰囲気にくつろげる空間を提供した。ハナショウブ園では後世に伝えたい古花の展示に努め、拡充したエリアには、江戸期に育成された古花を中心に展示し、他との差別化を図った。また、最奥部では自生地に近い環境を生かし、ヤマアジサイを展示した。
〔樹林観察園〕 シイ類、ブナ、カエデ類など	西南日本の常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の構成種を植栽し、これらの樹林の環境や樹木を体感、学習できる場を提供した。
〔森のレストラン前花壇〕 コ ス モ ス など	園内で最大の面積を誇る花壇に、春はネモフィラ、夏はヒマワリ、秋はコスモスを植栽し、フォトジェニックな風景を提供した。
〔 展 示 資 料 館 周 辺 〕	企画展示・講演会等への誘導及び快適な園内散策となるよう、効果的な植栽を行った。

【植物の栽培展示数】

(令和5年3月31日現在)

区 分	種 類	本 数
大 温 室	700 品種	5,000 本
サ ボ テ ン 温 室	320 品種	500 本
熱 帯 ス イ レ ン 温 室	200 品種	750 本
ベ ゴ ニ ア 温 室	680 品種	2,000 本
フ ク シ ア 温 室	300 品種	370 本
栽 培 温 室	3,900 品種	32,500 本
バ ラ 園	700 品種	1,000 本
ツ バ キ 園	200 品種	600 本
花の進化園、樹林観察園その他	3,100 品種	154,280 本
合 計	10,100 品種	197,000 本

(イ) 植物の収集及び栽培管理

名 称	内 容
展示・保存植物の維持・充実	計画的な増殖や種子・種苗の交換などにより、展示植物や保存植物の維持、充実を図った。
栽培下における増殖	希少又は展示上重要な野生植物や園芸品種の増殖を行った。
種子・種苗の交換	国内外の植物園などと種子や種苗を交換し、魅力的な種や貴重な種を導入した。 譲受け : 国外2ヶ国 2施設 18種 国内 12施設 231種 譲渡し : 国外3ヶ国 3施設 11種 国内 6施設 22種
種苗の導入	最新の市場動向などを把握することによって、季節ごとに展示する魅力ある植物を導入した。
植物の栽培管理	生育状態を良好に保ち、病虫害被害の発生を未然に防ぐため、品種ごとに灌水、施肥、剪定、温度・湿度の管理、必要に応じた薬剤散布などを適切に行い、栽培環境の向上を図った。

(ウ) 入園料の収受（利用料金制）

【入園状況】

区 分					入園者数	使 用 料	
有 料 入 園 者	個 人		大人	18 歳以上 65 歳未満	510 円	44,747 人	22,820,970 円
				65 歳以上	170 円	21,446 人	3,645,820 円
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	170 円	552 人	93,840 円
	年 間 パ ス ポ ー ト	購 入	大人	18 歳以上 65 歳未満	1,560 円	2,389 人	3,726,840 円
				65 歳以上	510 円	1,704 人	869,040 円
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	510 円	13 人	6,630 円
		提 示	大人	18 歳以上 65 歳未満	—	10,460 人	— 円
				65 歳以上	—	7,829 人	— 円
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	—	13 人	— 円
		団 体	大人	18 歳以上 65 歳未満	430 円	870 人	374,100 円
				65 歳以上	130 円	147 人	19,110 円
			小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	130 円	113 人	14,690 円
	優 待 割 引	大人	18 歳以上 65 歳未満	430 円	0 人	0 円	
			65 歳以上	130 円	0 人	0 円	
		小人	18 歳未満(小・中学生を除く)	130 円	0 人	0 円	
小 計					90,283 人	31,571,040 円	
減免等入園者（小・中学生、社会福祉施設、その他）					58,468 人	— 円	
合 計					148,751 人	31,571,040 円	

(エ) 利用促進

名 称	時 期	内 容	入園者数等
年間パスポートの販売 (動物園・植物園・昆虫館共同事業)	通 年	より多くの方に植物公園の魅力に触れる機会を提供するため、動物公園・昆虫館と共通して利用できる年間パスポートを販売し、利用者に対するサービスの向上及びリピーターの確保を図った。	販売枚数 4,106 枚
電動カートの運行	通 年	毎週土・日曜日、祝日に、勾配のある園内の移動手段として電動カートを巡回し、入園者にサービスの向上を図った。また、令和5年3月20日からは、駐車場から正門前までの平日運行を開始した。	毎週土・日・祝日 7,693 人 平日 1,024 人
さくらまつり	4月1日 ～4月17日 3月25日 ～3月31日	桜の見頃の時期に合わせ、桜観賞会や写真撮影講習会、コンサートなどのイベントを実施し、入園者の増加を図った。	15,797 人 7,635 人 計 23,432 人
休 園 日 の 開 園	4月1日 4月8日 4月28日 9月22日 2月24日 3月31日	さくらまつり、春の特別ラン展期間中などの休園日を開園し、利用者に対するサービスの向上を図った。	833 人 234 人 615 人 131 人 440 人 652 人 計 2,905 人
夜 間 開 園	4月2日 4月9日 9月10日 9月17日 9月23日 9月24日 11月26日 12月3日 12月10日 12月17日 12月24日 3月25日	夜に開花する植物(オオオニバス・サガリバナ・月下美人)、夜に香る植物(夜香木、夜来香)、桜などのライトアップや、キャンドルとイルミネーションを使った幻想的な空間づくり、コンサートなどを行い、植物公園の魅力を向上させた。	夜間入園者数 (16時以降の入園者数) 1,189 人 507 人 1,019 人 950 人 1,080 人 1,702 人 1,307 人 1,256 人 1,642 人 1,025 人 406 人 521 人 計 12,604 人
フ ォ ト ラ リ ー	4月3日 4月10日 4月17日	さくらまつり期間中にカーブ選手看板等を配置し、それらと一緒に写した写真を提示する入園者に景品を進呈することで、入園者の増加を図った。	200 人 200 人 200 人 計 600 人

名 称	時 期	内 容	入園者数等
みどりの日・植物園の日 記 念 行 事	5月4日	みどりの日と植物園の日を記念し、 花苗のプレゼント、コンサートなど 様々なイベントを実施した。	3,899 人
区民ウオークin植物公園 (佐伯区役所共同事業)	5月28日	手軽な健康づくりを推進するため、 市民を対象にウオーキング大会を実 施した。	171 人
サ マ ー フ ェ ア	7月16日 ～8月31日	夏休み期間中を中心に、植物クイズ ラリーやカブトムシ観察会、イベン ト広場や芝生広場での散水器具を使 用した水遊びや絵本のよみきかせな どを実施し、入園者の増加を図っ た。また、展示資料館展示室を子ど も向けのオープンスペースの位置づ けとし、植物にちなんだ遊びや自由 研究のヒントとなる体験ができる空 間とした。	20,506 人
秋のグリーンフェア	10月29日 ～11月3日	秋のグリーンフェアの会場として利 用するとともに、期間中の入園料を 無料とし、キッチンカーの出店や新 規イベント等による入園者サービス の向上並びに入園者数及び収入（駐 車料など）の増加を図った。街中で 行われる春のグリーンフェアとのコ ンセプトの違いを強調し、緑に囲ま れた園内でより深く緑に親しみ、植 物について多くの学びを得られるイ ベントとして展開した。	9,718 人
開園記念日記念行事	11月3日	開園46周年を記念し、花苗のプレ ゼントやコンサート、植物クイズラ リーなど様々なイベントを実施し た。	3,658 人
バ レ ン タ イ ン フ ェ ス テ ィ バ ル	2月11日 ～2月14日	バレンタインデーにちなんだ関連イ ベント（講演会や実演会等）を実 施した。	1,557 人
春 の 特 別 ラ ン 展	2月18日 ～2月26日	大温室内にランの愛好団体や生産者 による展示ブースを設けるととも に、「ランで彩るG7」をテーマと した洋ランの大規模展示及び『奇跡 の青色コチョウラン「Blue Gene」 (ブルージーン)』（遺伝子導入と いうバイオ技術で開発された世界初 の青色コチョウラン)の展示を行っ た。あわせて、各種関連イベントを 開催した。	7,712 人

(オ) 施設の維持管理・園内サービス

名 称	時 期	内 容
施 設 の 維 持 管 理	通 年	入園者に安全・快適な観覧環境を提供するため、園内の清掃・警備を行った。また、温室などの建物や機械・電気などの設備を良好な状態で使用できるよう維持管理や小規模修繕を行った。
利 用 案 内	通 年	入園者が快適に観察できるよう、標識、リーフレット、園内放送などにより利用案内を行った。
緊急時などの対応	通 年	傷病者の救護、迷子の捜索・保護、拾得物・遺失物の管理などを行った。
樹木ラベルの充実	通 年	樹木ラベルの追加・更新を行った。

(カ) 施設の機能充実

名 称	時 期	内 容
みどり生きものサポーター・植物公園募金等による施設の機能充実	通 年	植物を観察し学習できる場を入園者に提供するため、寄附金を募った。寄附金は次年度以降に繰り越し、全ての世代が植物観賞の合間も楽しく過ごせる環境づくりに充てていく予定である。

イ 生物多様性の保全

(ア) 他団体との連携

名 称	時 期	内 容	件 数
希 少 植 物 の 保 護	通 年	(公社)日本植物園協会からの受入れ要請に基づき、ワシントン条約違反の任意放棄植物を保護した。	41 件 (前年度からの継続含む)
		広島市環境局環境保全課に対し、『恵下埋立地(仮称)希少動植物調査結果報告』に基づく、今後の調査・保全方針について、助言・提言を行った。	1 件

(イ) 生息域内保全

名 称	時 期	内 容	件 数
生 息 地 に お け る 絶滅危惧植物の保全	通 年	世羅町をはじめとする広島県内の自生地において、ヤチシャジンをはじめとする絶滅の危機に瀕した植物の調査や保全活動を行った。	12 件

(ウ) 生息域外保全

名 称	時 期	内 容	種 数 等
生息地以外における絶滅危惧植物の保全	通 年	野生ラン、ヤチシャジン、ヒゴタイなど、広島県内産種を中心に、日本の絶滅危惧植物を保全した。また、(公社)日本植物園協会の多様性保全拠点園事業に参加し、植物の多様性の保全に貢献した。	日本産 120 種 ワシントン条約 98 種
園芸植物遺伝子資源の保護	通 年	変化アサガオ、サクラソウ、ゼラニウムやバラの古い園芸品種など、保護が必要な園芸植物を栽培・保存した。(公社)日本植物園協会が行うナショナルコレクション検討会に参加し、植物の多様性の保全に貢献した。	66 種 約 400 系統 検討会 1 件

(エ) 植物に関する調査・研究

名 称	時 期	内 容
植物に関する調査・研究	通 年	《植生調査》 主に県内の植物分布などの調査を行い、希少植物や分布上貴重な植物について、自生状況を記録するとともに保護に努めた。
		《成果の公表》 植物に関する調査・研究活動により得られた知見を学会や印刷物により公表した。
新品種の保護	通 年	農林水産省からの依頼による、種苗法に基づく新規出願品種の現地調査員、種苗登録に関する基準案作成検討委員としての活動により、新品種の保護に努めた。
各種資料の収集	通 年	植物の標本及び植物に関する書籍・雑誌・資料を収集し、栽培や調査・研究に役立てた。
植物標本の活用	通 年	広島県内の植物標本庫における相互ネットワークを構築し広島大学などの県内の標本庫と情報交換を行った。
研究活動発表会 (動物園・植物園・昆虫館共同事業)	2月4日	栽培展示活動や調査研究活動などの成果を市民に情報提供した。今年度初めて5-daysこども文化科学館にて開催した。 (参加者 28人)

ウ 教育・普及

(ア) 社会教育への協力

名 称	時 期	内 容	件 数 等
講習会・研修会などの開催及び講師の派遣 (出前講座を含む)	通 年	団体の要請に基づいて、随時、植物公園で講習会・研修会などを開催した。また、公民館、学校等を対象に園外に出向き、講演や講習会などを開催した。	園内 6 件 園外 11 件

名 称	時 期	内 容	件 数 等
実 習 生 の 受 入 れ	通 年	大学生などを受け入れ、博物館実習（学芸員実習）、就業体験（インターンシップ）を行った。	6 件 7 人
森の幼稚園を活用した保育者指導	6月5日 10月2日	幼児教育の専門家を招き、保育者等を対象とした自然体験プログラムの指導を行った。	10 組 27 人 7 組 21 人

(イ) 市民・団体との協働

名 称	時 期	内 容	活動者数等
植物解説ボランティア	通 年	園内で植物解説活動に当たるガイドボランティアを育成した。 (解説ボランティア登録人数：52人)	活動延べ人数 996 人
植物管理ボランティア	通 年	植物友の会会員を対象に園内で植物管理に当たるボランティアを育成した。 (管理ボランティア登録人数：115人)	活動延べ人数 134 人
地域団体などとの協働	通 年	造幣局広島支局「花のまわりみち」の桜樹育成指導や文化活動、佐伯区役所との協力などにより、植物を通じた地域の活性化を図った。	16 件 《内訳》 造幣局桜樹育成指導 3 件 佐伯区百人委員会花部会 7 件 さえきフラワープロジェクト 6 件
グリーン・レガシー・ヒロシマへの協力	通 年	被爆樹木の種子を国内外の都市へ送付する活動に対し、種子の保存や送付及び育苗の協力を行った。	20 件
花と緑と音楽の広島づくりの推進	通 年	広島市都市整備局緑化推進部と連携して、地域の花壇作り等の活動を行うグループへの講習を実施し、リーダー育成につなげた。	1 件
フラワーフェスティバルへの協力	5月3日 ～5月5日	第45回ひろしまフラワーフェスティバルへの展示協力を行った。	1 件

【愛好者団体による展示会】

名 称	時 期	内 容
「草木染の世界」展	4月1日 ～4月6日 2月25日 ～3月31日	草木を使った染物と染色に利用される植物などを展示し、作品などについて解説した。
ボタニカルアート作品展	4月9日 ～5月5日	ボタニカルアート(植物細密画)教室の作品を展示した。
エビネ展	4月23日 ～4月26日	日本の野生ランの中で最も美しく、花色の多いエビネを展示した。

名 称	時 期	内 容
春 の 山 野 草 展	4月23日 ～4月27日	春咲きの山野草を野趣あふれる鉢作りで展示した。
ク レ マ チ ス 展	4月29日 ～5月5日	テッセンやカザグルマの名で親しまれる色とりどりの大輪の花が美しいクレマチスの仲間を展示した。
セ ッ コ ク ・ 長 生 蘭 展	5月7日 ～5月12日	日本の野生ランであるセッコクとその中で斑入りなどの特徴を持ち長生蘭と呼ばれる品種を展示した。
趣味のボタニカルアート展	5月7日 ～6月8日	ボタニカルアート(植物細密画)を展示した。
遅咲きクレマチス展	5月14日 ～5月17日	小型で可愛いヴィチセラ系クレマチスや遅咲き大輪系を中心に、美しいクレマチスの仲間を展示した。
初夏の小品盆栽展	6月11日 ～6月13日	フウチソウやツツジなど、初夏に見ごろの植物を小鉢仕立てで展示した。
ウ チ ョ ウ ラ ン 展	6月11日 ～6月16日	初夏に可憐な花を咲かせる小型の野生ランであるウチョウランを展示した。
私の好きな花たちの写真展	8月20日 ～9月19日	身近な植物を題材とした写真を展示した。
野 生 きの こ 展	10月1日 ～10月2日	広島県に自生する様々なきのこを展示した。
秋 の 山 野 草 展	10月1日 ～10月6日	秋咲きの山野草を野趣あふれる鉢作りで展示した。
サボテン・多肉植物展	10月8日 ～10月23日	変化に富んだサボテンや多肉植物を展示した。
ハンギングバスケット展	10月22日 ～11月3日	ハンギングバスケットを展示し、作り方などを紹介した。
寒 蘭 展	11月9日 ～11月14日	東洋蘭の中でも特に清楚で気品のある寒蘭を展示した。
新 春 小 品 盆 栽 展	1月7日 ～1月9日	松・竹・梅など、新春を飾るにふさわしい植物を小鉢仕立てで展示した。
お も と 名 品 展	2月8日 ～2月14日	葉の斑入り模様や形の変化が面白い万年青を展示した。
フラワーデザイン展	2月18日 ～2月23日	切り花やドライフラワーなど様々な素材を生かしたフラワーデザインの作品を展示した。

(7) 植物友の会の活動

会員内訳(個人会員:80人、家族会員:21家族46人)

名 称	時 期	内 容	参加者数
会 誌 の 発 行	年 4 回	植物の話題や友の会の活動、植物公園の出来事などを載せた会誌「はなの輪」を発行した。	春号 500 冊 夏号 500 冊 秋号 500 冊 冬～初春号 500 冊

名 称	時 期	内 容	参加者数
野 外 観 察 会	4月5日 5月21日 11月27日	植物や自然についての理解や知識を深めるため、自然景勝地等に生育する植物を観察した。	10人 7人 11人 計28人
広島市植物公園 植物友の会例会	5月15日	春～初夏の園芸作業、植物に関する講話	30人
	7月17日	夏の園芸作業、植物に関する講話	22人
	9月11日	秋の園芸作業、植物に関する講話	24人
	11月13日	特別講義 「認知症とカギカズラとヒガンバナの話」	19人
	1月15日	冬の園芸作業、植物に関する講話	29人
	3月12日	ハンギングバスケット実演、植物に関する講話	35人

(エ) 講座その他催し物の開催

a 講座

名 称	時 期	内 容	参加者数
ガーデニング講座 ～基礎から応用まで～	4月16日	春風に揺れるバスケット型寄せ植え	20人
	11月26日	初冬のハンギングバスケットの製作	15人
暮らしに役立つ ハーブ講座	6月25日	スパイスの基礎と栽培について解説した。	17人
	7月2日	ハーブ&スパイスで調味料を作った。	17人
	7月9日	キッチンに似合う香りと効能について解説を行った。	17人
市 民 講 座	11月13日	薬用植物について自然科学分野の学識経験者による市民講座を開催した。	19人

b 講習会・実演会

名 称	時 期	内 容	参加者数等
さくら写真撮影講習会	4月2日 4月9日	初心者向けにサクラの写真の撮り方を解説した。	20人 12人
エビネ実演会	4月24日	エビネの育て方を実演解説した。	50人
春の山野草実演会	4月24日	春の山野草の栽培方法を実演解説した。	17人
クレマチス実演会	5月3日	クレマチスの育て方を実演解説した。	49人
セッコク実演会	5月8日	日本の野生ランであるセッコクの育て方を実演解説した。	7人

名 称	時 期	内 容	参加者数等
バ ラ 講 習 会	5月8日	一般家庭に普及しているバラ全般の栽培方法について、詳しく解説した。	81人
ハ ー ブ 実 演 会	5月14日	ハーブの手軽な利用方法や楽しみ方を実演した。	23人
ボ タ ニ カ ル ア ー ト 色 付 け 体 験	5月15日	ボタニカルアート(植物細密画)の色付けを解説し、参加者に体験してもらった。	7人
ア ジ サ イ 実 演 会	6月5日 6月11日	アジサイの育て方を実演解説した。	31人
小 品 盆 栽 実 演 会	6月11日 1月8日	小品盆栽の仕立て方、育て方を実演解説した。	7人 25人 計32人
ハ ナ シ ョ ウ ブ 実 演 会	6月12日	ハナショウブの育て方を実演解説した。	17人
ビザールプランツ実演会	7月10日	ビザールプランツ(珍奇植物)の魅力を紹介し、栽培方法や楽しみ方を実演解説した。	30人
食 虫 植 物 実 演 会	8月7日	食虫植物の魅力を紹介し、栽培方法を実演解説した。	100人
植物写真撮影講習会	9月18日	植物の写真の撮り方を解説した。	10人
秋 の 山 野 草 実 演 会	10月2日	秋の山野草の栽培方法を実演解説した。	20人
花 と 緑 の 講 習 会	10月~11月	秋のグリーンフェア期間の平日にミニ講座を行った。	合計49人
球根博士に教わる スイセンの植付	10月31日 11月1日	スイセンの植付について解説した。	15人 4人 計19人
鉢 植 え の 秋 バ ラ 花 後 の 管 理	10月31日	鉢植えの秋バラの花後の管理を解説した。	18人
鉢 植 え で 楽 し む ツ バ キ	11月1日	鉢植えのツバキの管理を解説した。	5人
ジュエルオーキッド (宝石蘭)の楽しみ方	11月2日	ジュエルオーキッドの育て方を解説した。	7人
寒 蘭 実 演 会	11月13日	寒蘭の育て方を実演解説した。	10人
クリスマスリース作り講習会	11月20日	クリスマスリースの作り方を解説した。	13人
カカオニブ磨砕実演会	2月11日	専用石臼を使い、チョコレートの原材料の一つであるカカオニブの磨砕方法などについて実演解説した。	58人
お も と 実 演 会	2月11日	万年青の栽培管理を実演解説した。	7人

名 称	時 期	内 容	参加者数等
フラワーデザイン実演会	2月19日	簡単なフラワーアレンジの方法を実演解説した。	42 人
洋ラン栽培実演会	2月19日 2月23日 2月25日 2月26日	洋ランの育て方等を実演解説した。	21人 22人 22人 18人 計83人
洋ラン栽培講習会	3月11日	展示に使用したランを使った講習会を開催した。	100 人
シイタケ栽培講習会	3月21日	シイタケの植菌とその後の管理方法を解説した。	24 人
草木染講習会 (子ども織物教室)	3月26日	小さな織物を使って、オリジナルの織物マットを作成した。	10 組 14 人

c 講演会・展示解説

名 称	時 期	内 容	参加者数
ハーブ展解説	5月15日	ハーブ展について解説した。	16 人
ビザールプランツ講演会	6月26日	ビザールプランツ展に合わせ、魅力をより深く理解していただくためにビザールプランツの専門家を招いて講演会を開催した。	73 人
変化朝顔展解説	8月21日	変化アサガオの育て方と変化朝顔展について解説した。	21 人
薬用植物展解説	9月11日	薬用植物展について解説した。	6 人
特別企画展「コケの世界」 ギャラリートーク	10月10日 11月10日 12月10日	特別企画展「コケの不思議な世界」の展示内容について解説した。	25人 15人 3人 計43人
ガーデニングコンテスト 受賞作品解説	10月23日	ガーデニングコンテストの受賞作品について解説した。	8 人
特別企画展「コケの世界」 に関する講演会	10月29日	コケの専門家による講演会を開催した。	65 人
都市緑化に関する講演会	10月30日	「広島緑を魅力あるものに～広島市みどりの基本計画（2021-2030）での実現～」と題して、都市緑化に詳しい専門家による講演会を行った。	16 人
カカオニブ講演会	2月12日	絵本「たくさんの不思議：ひと粒のチョコレートに」の朗読とチョコづくりの体験を行った。	100 人
「草木染の世界」展 ギャラリートーク	3月26日	「草木染の世界」展の作品などについて解説した。	16 人

d コンクール

名 称	時 期	内 容	参加者数等
ラン 審 査 会	4月28日 10月29日 2月17日	ランの栽培技能の向上を図るため、ラン展展示協力団体から出品されたランを審査し、優秀作品を表彰した。	20人 98点 21人 150点 48人 319点 計89人 567点
ガーデニングコンテスト	9月1日 ～10月13日	コンテナガーデン(花の寄せ植え)とハンギングバスケットを一般公募し、優秀作品を表彰した。	応募 47点 入選 16点
植物写真コンテスト	9月3日 ～10月13日	植物公園の植物や園内風景を題材とした写真を募集し、優秀作品を表彰した。	応募 389点 入選 50点
写 生 大 会 (佐伯区役所共同事業)	11月19日	園内で絵を描いてもらい、優秀作品を表彰した。	応募 76点 入選 18点

e 観察会

名 称	時 期	内 容	参加者数
職 員 に よ る 植物 うんちく 語り	4月12日	ゼラニウム展 解説	51人
	4月23日	春の園内散策	33人
	5月10日	春バラ	20人
	5月28日	お部屋で楽しむセントポーリアの世界	37人
	6月14日	初夏の園内散策	20人
	6月25日	へんてこな植物の世界	37人
	7月12日	ダリアやバラと暮らすガーデン	14人
	7月23日	食虫植物のふしぎ	22人
	8月9日	「愛の告白」ベゴニアに片思い	12人
	8月27日	魅惑の睡蓮の世界	29人
	9月13日	夏～秋の大温室探訪	13人
	9月24日	温室の植物をめぐる冒険-極限環境の植物-	25人
	10月11日	アサギマダラとバタフライガーデンのすすめ	24人
	10月22日	キク科植物と「キク展」直前情報	22人
	11月8日	秋バラ	18人
	11月26日	紅葉狩を楽しむ	29人
	12月13日	クリスマス飾るフラワー展 解説	26人
	12月24日	縁起物の植物	3人
	1月10日	生きた化石 裸子植物の観察	20人
	1月28日	「春の特別ラン展」直前情報	24人
	2月14日	カカオと実のなる植物	14人
	2月25日	春の妖精に会いに行こう！！	61人
	3月14日	植物の分類体系と進化について	36人
	3月25日	サクラ案内	45人

名 称	時 期	内 容	参加者数
うらら池よもやま話	5月7日 7月16日	うらら池周辺の歴史や、絶滅危惧種の展示を中心に、見頃の植物たちと人間との関りを紹介した。	9 人 5 人 計 14 人
あおぞら自然観察会 (動物園・植物園・昆虫館共同事業)	5月8日	自然に関する理解を深めるため、広島県緑化センターでイシガメやカワトンボやシャクナゲなどを観察した。	8 人
園内生き物探訪	6月～10月	年8回、外部講師及び本園職員による生きもの(モリアオガエル、冬虫夏草、カブトムシとクワガタムシ、鳴く虫、きのこ、アサギマダラ、どんぐりと虫、冬の野鳥等)観察を行った。	合計 758 人
モリアオガエル観察会	6月4日	園内でモリアオガエルを観察した。	17 人
冬虫夏草観察会	7月10日	園内に発生する冬虫夏草を散策しながら観察した。	13 人
きのこ観察会	10月1日	園内に自生するきのこを散策しながら観察した。	15 人
野鳥観察会	1月9日	園内に飛来する野鳥を観察した。	38 人
みどりとむし講座 (植物公園・昆虫館共同事業)	7月～10月	昆虫館と共同で開催し、虫の観察だけでなく植物と虫が深くかかわりあっていることを紹介した。	合計 675 人
カブクワ観察会	7月22日	園内に生息するカブトムシ、クワガタムシを紹介し、それらが集まる木とあわせて観察した。	100 人
鳴く虫観察会	9月3日 9月4日	スズムシやコオロギ等の鳴く虫と食草を展示し、鳴き声を紹介した。	529 人
アサギマダラ観察会	10月15日	園内に飛来するアサギマダラとその吸蜜植物フジバカマを観察した。	24 人
どんぐりと虫観察会	10月16日	昆虫館周辺でどんぐりのなる植物とそれに関係する昆虫について観察・解説した。	22 人
ハナカマキリ展示 (植物公園・昆虫館共同事業)	3月25日 3月26日	さくらまつりで「桜色のハナカマキリがやってくる！」と題してランとそれに擬態する生体を展示した。25日は昆虫館職員によるフリートークを実施した。	2,401 人
コケ観察会	11月12日	龍頭狭(安芸太田町)で溪谷のコケの森を観察した。	17 人
	12月11日	広島大学(東広島市)で顕微鏡を使って身近なコケを観察した。	19 人

f 植物教室その他催し物

名 称	時 期	内 容	参加者数
オリエンテーリング	5月4日 7月16日 ～8月31日 11月3日	みどりの日、サマーフェア、開園記念日にオリエンテーリングを開催し、参加者に記念品を進呈した。	800人 3,615人 800人 計 5,215人
お 茶 会	5月29日 6月5日 6月12日	ハナショウブ&アジサイまつり開催中にお茶会を開催した。	100人 100人 100人 計 300人
森 の 幼 稚 園	6月5日 10月2日	幼児と保護者を対象に園内の植物や自然を通じて、楽しく学ぶ機会を提供した。	10組 27人 7組 21人 計17組 48人
ジュニアプロジェクト	6月5日 11月14日	ガイドボランティアが園内の植物や自然を通じて、植物や自然環境について楽しく学ぶ機会を提供した。	20人 31人 計 51人
親子植物体験教室	7月30日	小学校1～3年生とその保護者を対象に、植物の観察などを通じて植物について楽しく学ぶ機会を提供した。	6組 20人
オオオニバス試乗体験会	8月9日 8月11日 8月13日 8月14日	小学生(低学年)以下を対象に、オオオニバスの葉に乗る体験会を実施した。	187人 190人 192人 197人 計 766人
バオバブタッチングイベント	10月30日	大温室のシンボルツリーであるオーストラリアバオバブをタッチできるイベントを開催した。	530人
コスモスの摘み取り	11月6日	レストラン前のコスモス畑で来園者にコスモスを摘み取り、持ち帰ってもらった。	200人

(d) 学校教育活動の受入れ

名 称	時 期	内 容	件 数 等
自然体験学習の受入れ	通 年	保育園、幼稚園、小・中学校が行う自然体験学習を受け入れるほか、オリエンテーリングの相談に応じ、植物や自然保護などについて指導した。	24件 1,183人
職場体験などの受入れ	通 年	中学校の職場体験や高等学校等のインターンシップを受け入れ指導した。	1件 8人

(カ) 企画展その他展示会の開催

名 称	時 期	内 容
ゼ ラ ニ ウ ム 展	4月1日 ～4月17日 3月4日 ～3月31日	多彩な花色と葉の模様・色が美しいゼラニウムや、豪華なペラルゴニウムなどを展示した。
サ ク ラ ソ ウ 展	4月16日 ～4月20日	花の形や色の変化に富むサクラソウを展示した。
春 の 洋 ラ ン 展	4月29日 ～5月5日	春咲きのランの原種や交配種を展示し、ランの魅力を紹介した。
ローズフェスティバル	5月7日 ～5月22日	バラの展示を中心に、講習会やガイドツアーを行った。
ハ ー ブ 展	5月14日 ～5月26日	ハーブとして利用されている植物とその利用方法を紹介した。
セントポーリアと イワタバコの仲間展	5月28日 ～6月9日	可憐で人気のあるセントポーリアやその他のイワタバコ科の植物を展示した。
ハナショウブ & アジサイまつり	5月28日 ～6月19日	ハナショウブ、アジサイの展示を中心に、花の解説等を行った。
ア ジ サ イ 展	5月28日 ～6月19日	花の色の変化に富むアジサイの原種、園芸品種などを展示した。
写 生 大 会 作 品 展	6月18日 ～7月18日	令和3年度末に佐伯区と共催で開催した写生大会の作品を展示した。
ビザールプランツ展	6月22日 ～7月10日	県外等の著名なコレクターから出品協力を得て、ビザールプランツ（サボテンや多肉植物、茎や根が肥大化した塊根植物、エアープランツなど、独特なフォルムや生態で人気の珍奇植物）を展示した。
世界の食虫植物展	7月16日 ～8月14日	ハエトリグサやウツボカズラなど、子どもたちに人気のある世界の食虫植物を展示した。
変 化 朝 顔 展	8月20日 ～8月28日	花や葉が変化した珍しいアサガオを展示した。
薬 用 植 物 展	9月3日 ～9月25日	ウコンやキキョウなど薬用として用いられる植物を展示した。
特 別 企 画 展 「コケの不思議展」	9月23日 ～12月25日	コケの生態や分類などの解説のほか、ミクロな世界を写真も交えて紹介し、コケを題材にして園芸や環境に対する興味を持ってもらうきっかけづくりとした。
ガ ー デ ニ ン グ コンテスト作品展	10月22日 ～11月3日	一般公募によるコンテナガーデン(花の寄せ植え)とハンギングバスケットを展示した。
秋 の 洋 ラ ン 展	10月29日 ～11月6日	カトレヤやパフィオペディルムなど洋ランの園芸品種と珍しい原種を展示した。
キ ク 展	10月29日 ～11月20日	日本と中国の交流の証である中国の菊花や日本園芸菊などを展示した。
クリスマス飾るフラワー展	11月19日 ～12月25日	シクラメンやポインセチアなど、クリスマスでよく使われる植物や飾りを展示した。

名 称	時 期	内 容
冬 の 鉢 花 展	1月7日 ～2月5日	シクラメンやカランコエをはじめとする冬の鉢花を展示し、品種や栽培方法などをパネルで解説した。
写真コンテスト作品展	1月14日 ～2月12日	園内の植物や風景をテーマに募集した写真コンテストの入賞作品を展示した。

(キ) 広報普及

名 称	時 期	内 容	件 数 等
マスコミによる広報	通 年	テレビ局、ラジオ局、新聞社、出版社などを通じて、植物の見頃の時期や催し物などについては毎月、珍しい植物の開花状況などについては随時、広報した。	テレビ 77 件 ラジオ 10 件 新聞 23 件 情報誌等 127 件 計 237 件
催し物案内ポスター・P R 用チラシの配布	通 年	催し物案内ポスターやP R 用チラシを作製し、公共施設などに配布した。	ポスター 533 か所 チラシ 1,196 か所
植物写真パネルなどの貸出し	通 年	植物や園内風景を撮影した写真パネル・画像データを公共施設や事業所などに貸し出し、植物公園のP Rに努めた。	6 か所 90 点
ホームページによる広報	通 年	ホームページ（ブログを含む）により施設の紹介、催し物、開花状況などの最新情報を提供した。	アクセス件数 157,576 件
Twitter による広報	通 年	Twitterにより施設の紹介、催し物、開花状況などの最新情報を提供した。	フォロワー数 2,505 人
Instagramによる広報	通 年	Instagramにより施設の紹介、催し物、開花状況などの最新情報を提供した。	フォロワー数 413 人
Facebookによる広報	通 年	Facebookにより施設の紹介、催し物、開花状況などの最新情報を提供した。	フォロワー数 33 人
有料の広告媒体による広報	通 年	イベントチラシの新聞折込等を行った。	4 回
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 マツダスタジアムにおけるP R活動（5月）			

(ク) 出版物の発行

名 称	時 期	内 容	発行部数
「栽培記録」 「栽培の手引き」 「植物観察ノート」 「種子目録」 「年 報」 「あ ら ま し」 広報誌「はなの輪」	通 年	各種の出版物を発行、配布して、国内外の植物園、大学、各関係機関との交流を深め、植物園事業の発展を図るとともに、植物に関する知識の普及及び植物園事業の周知を図った。	500 部 HPで提供 HPで提供 電子メールで提供 70 部 250 部 1,500 部

(㌾) 植物に関する相談

名 称	時 期	内 容	件 数
植 物 園 芸 相 談	通 年	植物の栽培方法など植物に関する相談等を受けて助言、指導した。	1,538 件

④ 昆虫館の管理運営〔公2事業〕

広島市から指定管理者として指定（指定期間：令和4年4月1日～令和8年3月31日）を受けた昆虫館における昆虫の飼育・展示、収集及び飼育管理、入館料の収受、施設の維持管理などを行い、入館者が施設を安全かつ快適に利用できるよう努めた。

開館時は、新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用、手指消毒、三密回避などをお願いするとともに、手すりなど接触部分の消毒等を行った。なお、9月18日、19日は台風の接近に伴い臨時休館、12月23日、24日、1月23日、26日は大雪の影響により臨時休館した。

イベントや昆虫に関する情報提供はSNSやホームページ等により積極的に行うなど、利用促進につながる活動に取り組んだ。

また、他団体との連携や調査・研究の成果を生かして、希少昆虫の生息域内外保全に積極的に関わり、生物多様性の保全に貢献するとともに、社会教育、学校教育活動への協力、催し物の開催など各種事業を植物公園、安佐動物公園、農林水産振興センター、公民館等と協働して実施し、昆虫に関する知識及び昆虫愛護思想の普及、かん養並びに昆虫愛好者の育成を図った。

ア 昆虫の飼育・展示など

(ア) 昆虫の飼育・展示

〔展示場所〕 主な展示昆虫			内 容
〔パピヨンドーム〕	チ ョ ウ 類		年間を通して亜熱帯の花が咲く温室に、オオゴマダラ、ツマベニチョウ、スジグロカバマダラなど、常時10種500頭以上の沖縄産の美しい種を放蝶し、吸蜜、飛翔、求愛、交尾、産卵などチョウの様々な行動を目の当たりに観察できる展示を行った。チョウが観察しやすいよう、景観の改修にも努めた。
	イ ト ト ン ボ 類		ベニイトトンボ、キイトトンボなどのイトトンボ類の安定した累代飼育に取り組んだ。
	ナ ナ フ シ 類		タイワントビナナフシの展示を行った。
〔昆虫ランド〕	外 国 産 昆 虫		ヘラクレスオオカブトムシ、ニジイロクワガタ、ハナカマキリ、クワガタアリ、オオコノハムシなど、子どもに人気のある外国産昆虫を展示した。
	陸 生 昆 虫	夜 行 性 昆 虫	クワガタ類、カブトムシ、タイワンクツワムシ、スズムシ、マイマイカブリなど夜に活動する昆虫を照明により昼夜を反転させて展示した。
		昼 行 性 昆 虫	クロカタゾウムシ、モリバッタ、ツダナナフシ、キンカメムシ類など昼に活動する昆虫を展示した。
	水 生 昆 虫		ゲンゴロウ、タガメなどの水生昆虫をそれぞれの生息環境にすむその他の水生生物（オタマジャクシ、魚類、甲殻類）とともに展示した。

〔展示場所〕 主な展示昆虫			内 容
〔昆虫ランド〕	旬の昆虫	季節の昆虫	クワガタムシ、カミキリムシなど、身近な季節の移り変わりを感じさせる昆虫を展示した。
		外来昆虫	ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシなど近年、身近に見られるようになった外来種を展示した。
	社会性昆虫		巣を再現した専用テラリウム内でニシムネアカオオアリ、エゾヤマアカアリなど、巣を作り社会生活をする昆虫群を展示した。
	昆虫以外の陸生節足動物		同じ節足動物に属し、昆虫と間違えやすいタランチュラ、サソリ、サソリモドキなど、昆虫以外の陸生節足動物を展示した。
	なつかしい身近な生き物		40代以上の方が子どものころ遊びのなかで出会っていたダンゴムシ、スジエビなどの昆虫以外の小動物を展示した。
〔露天ゲージ〕	広島県の希少昆虫		広島県のみで生息する絶滅危惧昆虫のヒョウモンモドキ約50頭を、発生時期である6月に展示した。

【昆虫等の飼育頭数】

(令和5年3月31日現在)

区 分	種 類	頭 数
チョウ類など(パピヨンドーム)	13種	582頭
外国産昆虫	43種	549頭
夜行性昆虫	24種	180頭
昼行性昆虫	19種	345頭 3群
水生昆虫	9種	58頭
昆虫以外の陸生節足動物	5種	7頭
なつかしい身近な生き物	4種	80頭
合 計	117種	1,801頭 3群

(イ) 昆虫の収集及び飼育管理

名 称	内 容
展示昆虫の維持及び種の保存	計画的な採集や交換などにより、累代飼育を適正に行い、展示昆虫を維持するとともに、保護が必要な昆虫を飼育し、種の保存に取り組んだ。
近交弱勢防止のための チョウその他の昆虫の採集	累代飼育の結果生じる近交弱勢を防止するため、年に数回、広島県や沖縄県などでチョウその他の昆虫を採集した。
昆 虫 の 交 換	近交弱勢などの防止及び展示種の充実のため、他の昆虫展示施設と昆虫を交換した。 譲受け：コブナナフシなど7種 譲渡し：タイワンクツワムシなど9種
チョウその他の 昆虫の累代飼育	他の動物に比べ比較的寿命の短い昆虫を周年展示するために、チョウ類約10種、その他の昆虫等約180種を累代飼育した。
変わりゆく自然環境の 調査と情報発信	地球温暖化や開発等により変わりゆく自然の中にある昆虫の生態の現状を把握するため、生息地の継続調査や希少昆虫の飼育を行った。
外国産昆虫の導入と飼育	アフリカエダカマキリ等の新たな種を導入した。外国産コガネムシ類の累代飼育の確立に努めた。
「簡易繁殖場」における カブトムシの繁殖	昆虫好物樹木園等に設けている簡易繁殖場でカブトムシ・クワガタムシの自然繁殖が確認された。
昆 虫 の 飼 育 管 理	成育状態を良好に保つため、温度・湿度の管理のほか、必要に応じて消毒等を行い、チョウその他の昆虫の飼育及び展示に不可欠な蜜源植物及び食草を周年栽培・維持管理し、飼育環境の向上を図った。

(ウ) 入館料の収受 (利用料金制)

【入館状況】

区 分					入館者数	使用料		
有 料 入 館 者	個人		大人	18歳以上65歳未満	510 円	25, 534 人	13, 022, 340 円	
				65歳以上	170 円	2, 527 人	429, 590 円	
			小人	18歳未満（小・中学生を除く）	170 円	142 人	24, 140 円	
	年間 パス ポ ー ト	購 入	大人	18 歳以上 65 歳未満	1, 560 円	880 人	1, 372, 800 円	
				65歳以上	510 円	59 人	30, 090 円	
			小人	18歳未満（小・中学生を除く）	510 円	1 人	510 円	
		提 示	大人	18歳以上65歳未満	—	6, 602 人	— 円	
				65歳以上	—	426 人	— 円	
			小人	18歳未満（小・中学生を除く）	—	9 人	— 円	
		団 体		大人	18歳以上65歳未満	430 円	281 人	120, 830 円
					65歳以上	130 円	11 人	1, 430 円
				小人	18歳未満（小・中学生を除く）	130 円	0 人	0 円
	小 計				36, 472 人	15, 001, 730 円		
減免等入園者（小・中学生、社会福祉施設、その他）					53, 343 人	—円		
合 計					89, 815 人	15, 001, 730 円		

(エ) 利用促進

名 称	時 期	内 容	販売枚数等
年間パスポートの販売 (動物公園・植物公園・昆虫館共同事業)	通 年	より多くの方に昆虫館の魅力に触れる機会を提供するため、動物公園・植物公園と共通して利用できる年間パスポートを販売し、利用者に対するサービスの向上及びリピーターの確保を図った。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休園した日数については、利用期限を延長する対応を行った。	940枚
外国人観光客誘致の促進	通 年	英文リーフレットを森林公園内・昆虫館内、パーキングエリアへのサービス向上を図り、入館者増に努めた。	発行部数 500部
休 館 日 の 開 館	4月6日 4月13日 5月6日 7月20日 7月27日 8月3日 8月10日 8月17日 10月5日 10月12日 10月19日 10月26日 3月29日	花見シーズン、ゴールデンウィーク、夏休み期間、体験学習の多い秋の期間の開館し、利用者に対するサービスの向上を図るとともに、入館者増に努めた。	入館者数 2, 514人

(オ) 施設の維持管理・館内サービス

名 称	時 期	内 容
施 設 の 維 持 管 理	通 年	入館者に安全・快適な観覧環境を提供するため、館内の清掃・警備を行った。また、建物や機械・電気などの設備を良好な状態で使用できるよう維持管理や小規模修繕を行った。
利 用 案 内	通 年	入館者が快適に観覧できるよう、標識、リーフレット、館内放送などにより利用案内を行った。
緊急時などの対応	通 年	傷病者の救護、迷子の捜索・保護、拾得物・遺失物の管理などを行った。
展 示 解 説 の 充 実	通 年	昆虫の魅力や希少昆虫の現状を伝えるための展示解説板を、様々な年齢層を対象とするためにイラストや画像、動画を用いた内容で常時更新した。
入 館 者 へ の 涼 感 サ ー ビ ス の 提 供	7～9月	夏期の暑さ対策として、昆虫館玄関前広場及びパピヨンドーム内にミスト発生装置を設置した。

(カ) 施設の機能充実

名 称	時 期	内 容
みどり生きものサポーター・ 昆 虫 館 募 金 等 に よ る 施 設 の 機 能 充 実	通 年	より魅力的な施設を入館者に提供するため、寄附金を募った。寄附金は次年度以降に繰り越し、昆虫好物樹木園の整備等に充てていく予定である。

イ 生物多様性の保全

(ア) 他団体との連携

名 称	時 期	内 容	件 数
保護活動に関する情報交換	11月28日	保全地域協議会とヒョウモンモドキの調査や生息地の環境保全活動や情報交換等を行った。	1件

(イ) 生息域内保全

名 称	時 期	内 容	件 数
生 息 地 に お け る 絶 滅 危 惧 昆 虫 の 保 全	10月16日	昆虫館ボランティアとの協働で赤トンボ類の調査を行った。	東広島市志和 1件

(ウ) 生息域外保全

名 称	時 期	内 容	内訳等
生息地以外における絶滅危惧昆虫の保全	通 年	広島県のみが生息し、国内希少野生動植物種に指定されているヒョウモンモドキの生息地の環境整備を行うとともに、館内で累代飼育し、幼虫を生息地に放虫するなど、保全に取り組んだ。また、成虫の出現期の6月には専用ケージで生体展示を行った。	調査 6月 生息域外展示 6月 環境整備 4・11月 放虫 7・3月 3,200個体

(エ) 昆虫に関する調査・研究

名 称	時 期	内 容
昆虫に関する調査・研究	通 年	広島県、沖縄県などで、昆虫の種類や数の調査、採集を行い、ヒョウモンモドキなどの希少昆虫や分布上貴重な昆虫の生息状況を記録した。また、採集した昆虫を飼育して累代飼育の確立のための研究を行うとともに、採集した昆虫の一部を標本資料として保管した。
各 種 資 料 の 収 集	通 年	昆虫に関する書籍・雑誌・資料を収集し、累代飼育などの調査・研究に役立てた。
研 究 活 動 発 表 会 (動物園・植物園・昆虫館共同事業)	2月4日	昆虫の飼育展示活動などの成果を市民に情報提供した。今年度初めて5-daysこども文化科学館にて開催した。 (参加者 28人)

ウ 教育・普及

(ア) 社会教育への協力

名 称	時 期	内 容	件数等
講習会・観察会への講師の派遣	通 年	公民館、その他の公共施設などが実施する昆虫及び自然環境に関する講習会・自然観察会に職員を講師として派遣した。	14件 10,531人
実習生の受入れ	7月5日 ～7月6日 9月26日 ～10月1日	7月に職場体験として大州中学校より2名、9～10月に博物館実習として広島大学より2名、実習生を受け入れた。	2件 4人

(イ) 学校教育への協力

名 称	時 期	内 容	件数等
出張自然体験活動	5～2月	命の大切さを伝えるため、保育園・幼稚園、小学校に職員を派遣し、昆虫とのふれあい体験を行った。	35件 4,344人
教材生物バザールへの参加	5月18日	県立教育センターの要請に基づいて職員を派遣し、教材として昆虫に関する資料を提供した。 (於：東広島市)	119人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 総合的な学習時間の支援			

(ウ) 市民・団体との協働

名 称	時 期	内 容	参加者数等
まんかい桜むしみくじ (森林公園・昆虫館協働事業)	4月1日 ～4月16日 3月11日 ～3月31日	園内にある桜と昆虫おもしろ話の解説が付く春の運勢を占うおみくじを配布した。	1,307人
昆虫館ボランティア	4月23日 6月12日 10月16日 11月12日 11月26日	ボランティアを募り、自然や昆虫に関する専門知識を指導し、広島県内の希少昆虫の保護活動や調査等を行った。(ボランティア総数40人)	活動回数 5回 活動延べ人数 28人
ハロウィン 蟲の館 (森林公園・昆虫館協働事業)	10月30日	ハロウィンに合わせて飾りつけた館内で、クイズラリーを実施した。	216人
木の実・落ち葉で遊ぼう (森林公園・昆虫館協働事業)	11月20日 11月27日	外部講師を招き、いろいろな木の実や落ち葉を材料にした工作教室を実施した。	185人
森の七福神めぐり (森林公園・昆虫館協働事業)	1月7日 ～1月9日	昆虫館と公園を巡る昆虫や自然を七福神になぞらえたスタンプラリーを実施した。	342人
虫 み く じ (森林公園・昆虫館協働事業)	1月7日 ～1月9日	昆虫おもしろ話の解説が付く新年の運勢を占う「虫みくじ」を配布した。	683人
バレンタインイベント (森林公園・昆虫館協働事業)	2月12日	バレンタインに合わせて森林公園と協働でイベントを行った。昆虫館ではハート形リースに多数集まったチョウと一緒に撮影ができるコーナーを設置し、来館者に楽しんでもらった。	282人

(エ) 昆虫館友の会の活動

会員内訳（家族会員：27 家族 100 人）

名 称	時 期	内 容	参加人数等
野 外 観 察 会	5月8日	昆虫館周辺で初夏の昆虫の観察を行った。	61人
	6月5日	昆虫館周辺で梅雨時期の昆虫の観察を行った。	36人
	7月24日	市民の里@安佐で夏の昆虫の夜間観察を行った（農業振興センター共催）。	44人
	10月9日	植物公園で晩秋の昆虫の観察を行った。	27人
講 習 会	12月4日	カブトムシやクワガタムシ等の標本づくり教室を実施した。	46人
	3月5日	カブトムシ、クワガタムシの幼虫を配布し、飼育方法を解説した。各家庭で成長したカブトムシやクワガタムシは昆虫館に返却してもらい、次年度に展示する。	33人

(オ) 講演会その他催し物の開催

a 講座

名 称		時 期	内 容	参加者数等
虫 講 座 シ リ ー ズ	社 会 性 昆 虫	5月1日	春の企画展「社会性昆虫」に合わせて、ハチやアリのくらし等を解説するとともに野外観察を行った。	14 人
	ゴ キ ブ リ の は な し	6月19日	初夏の企画展「ゴキブリワールド」に合わせて、ゴキブリの生態や体のつくり等を詳しく解説した。	24 人
	カ ブ ク ワ の 採 り か た	7月17日	夏の人気の昆虫カブトムシ、クワガタムシの採集方法を解説した。	21 人
	カ マ キ リ の は な し	10月23日	秋の企画展「カマキリの世界」に合わせて、カマキリの生態や体のつくり等を詳しく解説した。	20 人
	カブトクワガ タの標本作り	12月11日	カブトムシやクワガタムシの標本づくり教室を行った。	46 人
大人 の た め の 昆 虫 講 座	ヒ ヨ ウ モ ン モ ド キ	6月19日	当館で生息域外保全で飼育している成虫の展示に合わせ、ヒョウモンモドキの生体と現状について解説した。	3 人
	広 島 県 の セ ミ	9月11日	広島県に分布するセミの生態や脱皮殻の見分け方について解説した。	17 人
	タ ガ メ	1月29日	絶滅危惧種であるタガメの生態や広島県での現状について解説した。	25 人

b コンクール

名 称	時 期	内 容	参加者数等
むしむし動画コンテスト	(応募期間) 5月1日 ～11月10日 (作品展) 1月14日 ～3月26日	昆虫を題材とした動画コンテストを実施し、優秀作品を表彰した。 優秀作品は作品展で公開した。	応募者数 12人 応募点数 23点 入賞点数 8点

c 観察会

名 称	時 期	内 容	参加者数等
虫 さ が し	4月10日 5月15日 9月25日	昆虫館周辺及び樹木園で、家族を対象に、昆虫の観察と名前調べを行った。	59人
あおぞら自然観察会 (動物公園・植物公園・昆虫館共同事業)	5月8日	自然に関する理解を深めるため、広島県緑化センターで動物・植物・昆虫の観察会を実施した。	8人
樹 木 園 ツ ア ー	5月21日 7月9日 10月1日	普段は公開していない樹木園を散策しながら、季節の昆虫や自然について解説した。	51人
みどりとむし講座 (植物公園・昆虫館共同事業)	7月～10月	植物公園と共同で開催し、虫の観察だけでなく植物と虫が深くかかわりあっていることを紹介した。	合計 675人
カブクワ観察会	7月31日	植物公園でカブトムシ・クワガタムシの観察とそれらが集まる樹木について解説した。	100人
鳴く虫観察会	9月3日 9月4日	スズムシやコオロギをはじめとする秋の鳴く虫を展示し、植物との関わりを解説した。	529人
アサギマダラ観察会	10月15日	植物公園でアサギマダラの観察とそれらが集まる花について解説した。	24人
どんぐりと虫観察会	10月16日	昆虫館周辺でどんぐりのなる植物とそれに関係する昆虫について観察・解説した。	22人
ハナカマキリ展示 (植物公園・昆虫館共同事業)	3月25日 3月26日	植物公園のさくらまつりで「桜色のハナカマキリがやってくる！」と題して生体を展示した。 25日はフリートークを実施した。	2,401人

d 昆虫教室その他催し物

名 称	時 期	内 容	参加者数等
むしむしクイズラリー	4月3日	昆虫への興味と知識を楽しみながら深められるクイズラリーを実施した。	280人

名 称	時 期	内 容	参加者数等
飼 育 室 ツ ア ー	4月9日 6月25日	普段は公開していない裏側を公開し、飼育や生体の維持管理について解説した。	49人
むしの日イベント 「昆虫博士になれるかな？」	6月4日	むし(6/4)の日に昆虫への興味と知識を深められるクイズラリーを実施した。	101人
昆虫館お仕事体験 (寄附者対象)	7月2日 9月10日 9月11日	昆虫への理解を深めるため、餌やり、放蝶など昆虫の飼育について指導した。	15人
夏休み子ども昆虫相談	7月16日 ～8月31日	夏休みの自由研究の疑問点など、昆虫に関する相談を受けて助言、指導した。	12人
むしむしサマースクール	8月6日 8月20日	小学生を対象として、飼育や採集等、昆虫館のお仕事体験を実施した。	7人
クリップバッタ選手権	12月3日	プラスチッククリップを材料にして作ったバッタを的にめがけて飛ばすゲーム大会を実施し、的に入った人には景品を進呈した。	92人
クリスマス蜜蝋 キャンドルづくり	12月17日 12月18日	ミツバチの巣の原料「蜜蝋」を使ったクリスマス用のろうそくづくり体験教室を実施した。	37人
ぱたぱたバタフライ	1月15日 2月5日 2月19日 2月26日 3月19日 3月26日	紙とストロー、竹ひごを材料に、はばたくチョウのおもちゃを作る工作教室を行った。完成後はパピヨンドームで動かして、生きたチョウを集める体験イベントを実施した。	230人
カブトムシクラブ	3月12日	カブトムシの飼育方法について解説するとともに、幼虫を配布した。	47人
森 の 音 楽 会	3月21日	サクソ四重奏団を招き、自然に関係する曲を演奏する音楽会を開催した。	42人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 虫タッチ			

(カ) 学校教育活動の受入れ

名 称	時 期	内 容	参加者数等
自然体験学習の受入れ	4月～11月 1月 3月	幼稚園、保育園や小・中学校等が行う自然体験学習を受け入れ、昆虫の観察やふれあい体験を行った。	3,220人
職場体験の受入れ	7月5日 ～7月6日	中学校の職場体験を受け入れ、指導した。	2人

(キ) 企画展その他展示会の開催

名 称	時 期	内 容
社 会 性 昆 虫	4月16日 ～5月8日	アリやハチなど、家族で役割分担をしながらくらす昆虫の巣と生体を展示し、その生態の不思議やおもしろさを画像や標本、パネルを用いて詳しく解説した。
ゴキブリワールド	6月4日 ～6月19日	嫌われものでありながら市民の興味を引いてやまないゴキブリについてパネルや画像を用いて詳しく解説し、生体を展示した。
世界のカブト・クワガタ	7月16日 ～8月28日	世界の生きたカブトムシ・クワガタムシを展示するとともに、標本や模型を用いて生態等を詳しく解説した。
秋 の 鳴 く 虫	9月10日 ～9月25日	暗くした会場で、美しい声で鳴く生きた秋の虫を展示解説し、来館者に癒しの空間を提供した。
カマキリの世界 ～ユニークな昆虫狩人	10月8日 ～11月6日	昆虫界の人気者カマキリのくらしや一生について、外国産の生体を豊富に揃えて展示し、詳しく解説した。

(ク) 広報普及

名 称	時 期	内 容	件数等
マスコミによる広報	通 年	テレビ局、ラジオ局、新聞社、出版社、市広報紙課などを通じて、昆虫館の展示や催し物などの広報を行った。	新 聞 6 件 テ レ ビ 6 件 ラ ジ オ 4 件 雑 誌 1 件 市民と市政 16 件 計 33 件
保育園、幼稚園、小学校、 その他の教育施設への 学 習 利 用 の 促 進	通 年	保育園、幼稚園、小学校を訪問時に、昆虫館で実施している社会教育活動を紹介した。	35件
ホームページによる広報	通 年	ホームページにより、施設の紹介、催し物、展示昆虫や季節の昆虫などの最新情報を提供した。	アクセス数 10,034件
Facebookによる広報	通 年	Facebookにより、施設の紹介、催し物、展示昆虫や季節の昆虫などの情報を提供した。	投稿件数 243件
Twitterによる広報	通 年	Twitterにより、催し物、展示昆虫や季節の昆虫などの情報を提供した。	投稿件数 244件
Instagramによる広報	通 年	Instagramにより、催し物、展示昆虫や季節の昆虫などの情報を提供した。	投稿件数 67件

名 称	時 期	内 容	件数等
オリジナルグッズの配布	通 年	各イベントに合わせ、昆虫シールや缶バッジなど昆虫館オリジナルグッズを配布し、昆虫館をPRした。	昆虫シール 100枚 缶バッジ 130個
有料の広告媒体による広報	7月	森林公園と共同で、イベントチラシの新聞折込を行った。	110,000枚
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 マツダスタジアムにおけるPR活動			

(ケ) 出版物の配布

名 称	内 容	配布部数
「標本の作り方」 「飼ってみよう」	身近な昆虫の飼い方や標本の作り方を分かりやすく解説したリーフレットを配布し、昆虫に関する知識の普及や昆虫館事業の周知を図った。	300部 400部
「昆虫館News」	昆虫館の魅力を市民に発信するため、飼育展示の裏話やイベント情報を掲載した冊子を発行、配布した。	3,000部

(コ) 昆虫に関する相談

名 称	時 期	内 容	件数
昆 虫 相 談	通 年	昆虫の飼育方法や生態など昆虫に関する相談等を受けて助言、指導した。	304件

(2) 収益事業等

① 売店の運営など〔収 1 事業〕

ア 安佐動物公園等における売店の運営など

指定管理者として指定された次の施設の利用者の利便を図るため、売店、食堂などの経営を行った。

営 業 場 所	内 容
安 佐 動 物 公 園	売店(2か所)における土産物などの販売 食堂(1か所)における飲食物の販売 喫茶(1か所)における飲食物の販売 自動販売機による清涼飲料水などの販売 ベビーカーの賃貸 コインロッカーの賃貸 電動スクーターの賃貸
植 物 公 園	売店(1か所)における土産物などの販売 売店(1か所)における植物などの販売 食堂(1か所)における飲食物の販売 喫茶(1か所)における飲食物の販売 臨時売店(3か所)における植物などの販売 自動販売機による清涼飲料水などの販売 コインロッカーの賃貸 電動スクーターの賃貸 観光望遠鏡の賃貸
昆 虫 館	売店(1か所)における土産物などの販売 自動販売機による清涼飲料水などの販売 コインロッカーの賃貸
中央公園(ファミリープール)	自動販売機による清涼飲料水などの販売 浮輪の賃貸

イ 公益目的事業への繰入れ

緑のまちづくり事業、動物公園事業、植物公園事業、昆虫館事業等の推進を図るため、売店の運営等で得た収益を公益目的事業に繰り入れた。

② 公園及び公園施設の管理運営〔他 1 事業〕

広島市から指定管理者として指定（指定期間：令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日）を受けたファミリープールの入園料などの収受及び管理運営、中央公園の維持管理、並びに安佐動物公園、植物公園の駐車料の収受及び駐車場の管理運営を行い、入園者及び利用者が施設を安全かつ快適に利用できるよう努めた。

ファミリープールの運営では、新型コロナウイルス感染防止のため、入園人数制限や入園時の検温、消毒液の設置などを行った。また、入園人数制限による混乱を防止するため、ホームページや SNS で適宜、入園人数の現況を速報するなど、円滑な運営に取り組んだ。なお、台風接近により 7 月 5 日～6 日を臨時休園した。

ア 中央公園（ファミリープールを含む）の管理運営

(7) 入園料などの収納事務

ファミリープール（利用料金制）

【入園状況】

区 分					入 園 者 数	使 用 料
有 料 入 園 者	個 人	大 人	1 8 歳以上 6 5 歳未満	790 円	26, 789 人	21, 163, 310 円
		大 人	6 5 歳以上	340 円	730 人	248, 200 円
		小 人	小・中・高校生及び18歳未満	340 円	28, 229 人	9, 597, 860 円
	団 体	大 人	1 8 歳以上 6 5 歳未満	650 円	17 人	11, 050 円
		大 人	6 5 歳以上	270 円	0 人	0 円
		小 人	小・中・高校生及び18歳未満	270 円	101 人	27, 270 円
	小 計				55, 866 人	31, 047, 690 円
減 免 等 入 園 者（ 障 害 者 、 そ の 他 ）					18, 624 人	－円
合 計					74, 490 人	31, 047, 690 円

【コインロッカー利用状況】

区 分	利 用 回 数	使 用 料
ロッカー利用（100 円）	26,471 回	2,647,100 円

(イ) 利用促進

名 称	時 期	内 容	参加者数等
ファミリープール 休 園 日 の 開 園	8 月 6 日	開園期間中の休園日を開園し、利用者に対するサービスの向上及び入園者の増加を図った。	入園者数 823 人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 ファミリープール前売券の販売、ファミリープールポイントカードの発行、 ファミリープールイベント開催			

(ウ) 施設の維持管理・園内サービス

名 称	時 期	内 容
施 設 の 維 持 管 理	通 年	利用者に安全・快適な利用環境を提供するため、園内の清掃・警備などを行った。また、管理棟などの建物、機械・電気などの設備を良好な状態で利用できるよう維持管理や小規模修繕を行った。
利 用 案 内	通 年	利用者が快適に施設を利用できるよう、案内標識や園内放送などにより利用案内を行った。
緊 急 時 等 の 対 応	通 年	傷病者の救護、迷子の捜索・保護、拾得物・遺失物の管理などを行った。
ファミリープール入園者への涼感サービスの提供	7月1日 ～8月31日	暑さ対策として、入園ゲート前と園内にミストファンを置き、入園者が涼しさを感じられるサービスを提供した。

イ 安佐動物公園及び植物公園の駐車場の管理運営

(ア) 駐車料の収受（利用料金制）

a 安佐動物公園

【利用状況】

区 分	台 数	使 用 料
中・大型自動車等 (1,400円)	848 台	1,187,200 円
普通自動車等 (450円)	96,049 台	43,222,050 円
減 免 利 用	3,150 台	－円
合 計	100,047 台	44,409,250 円

b 植物公園

【利用状況】

区 分	台 数	使 用 料
中・大型自動車等 (1,400円)	84 台	117,600 円
普通自動車等 (450円)	44,976 台	20,239,200 円
減 免 利 用	1,791 台	－円
合 計	46,851 台	20,356,800 円

(イ) 施設の維持管理

名 称	時 期	内 容
施 設 の 維 持 管 理	通 年	利用者に安心・安全な利用環境を提供するため、駐車場内及び進入路における交通誘導や警備などを行った。また、立体駐車場などの建物や機械・電気などの設備を良好な状態で利用できるよう維持管理や小規模修繕を行った。

ウ 中央公園（ファミリープールを含む）における教育・普及

(ア) 水泳教室その他催し物の開催

名 称	時 期	内 容	参加者数等
中 央 公 園 樹 名 板 づ く り	12月28日 ～3月31日	中央公園樹木の樹名板の作製を行う子どもを募り、作業を通じて樹木について楽しく学ぶ機会を提供した。また、この手作りの樹名板により公園利用者の関心を引き、樹木への理解や知識を深めた。	30 人
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 ファミリープール水泳教室			

(イ) 広報普及

名 称	時 期	内 容	件 数 等
マスコミによる広報	通 年	テレビ局・新聞社・出版社などを通じて、催し物などの広報を行った。	テレビ 18 件 新 聞 1 件 計 19 件
ホームページによる広報	通 年	ホームページにより、施設の紹介や催し物などの情報を提供した。	アクセス件数 124,695 件
Twitter による広報	通 年	Twitterにより、施設の紹介や施設利用者数などの情報を提供した。	投稿件数 417 件
【新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業】 PR用チラシの作製及び配布			

- 7 事業報告の附属明細書
記載すべき事項はありません。

決 算 報 告 書

第2 決算報告書

令和4年度公益財団法人広島市みどり生きもの協会決算報告書 (令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

1 貸借対照表

貸 借 対 照 表

令和5年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	313,297,686	331,363,421	△ 18,065,735
未収金	4,454,909	2,641,939	1,812,970
未収消費税等	0	9,021,900	△ 9,021,900
商品	8,380,147	9,027,645	△ 647,498
流動資産合計	326,132,742	352,054,905	△ 25,922,163
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	112,000,000	112,000,000	0
基本財産合計	112,000,000	112,000,000	0
(2) 特定資産			
緑化基金積立資産	413,634,328	413,634,328	0
広島市みどり生きもの協会賞基金積立資産	3,000,000	3,000,000	0
退職給付引当資産	37,622,689	36,326,749	1,295,940
減価償却引当資産	27,810,063	26,486,209	1,323,854
備品等購入資金積立資産	1,452,606	1,452,606	0
みどり生きものサポーター募金積立資産	3,031,518	2,013,719	1,017,799
特定資産合計	486,551,204	482,913,611	3,637,593
(3) その他固定資産			
建物	1,490,000	1,490,000	0
建物減価償却累計額	△ 1,489,998	△ 1,489,998	0
構築物	2,764,650	2,764,650	0
構築物減価償却累計額	△ 2,150,271	△ 1,965,962	△ 184,309
車両運搬具	4,283,207	4,283,207	0
車両運搬具減価償却累計額	△ 4,283,202	△ 4,283,202	0
器具備品	27,030,393	25,971,093	1,059,300
器具備品減価償却累計額	△ 22,958,436	△ 21,785,843	△ 1,172,593
電話加入権	74,984	74,984	0
投資有価証券	32,084	245,824	△ 213,740
その他固定資産合計	4,793,411	5,304,753	△ 511,342
固定資産合計	603,344,615	600,218,364	3,126,251
資産合計	929,477,357	952,273,269	△ 22,795,912

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	98,370,371	180,587,675	△ 82,217,304
未払消費税等	34,185,600	6,004,600	28,181,000
未払法人税等	221,000	271,000	△ 50,000
前受金	46,000	33,000	13,000
買掛金	6,928,131	6,479,510	448,621
預り金	10,308,482	9,004,036	1,304,446
賞与引当金	34,418,615	32,683,421	1,735,194
流動負債合計	184,478,199	235,063,242	△ 50,585,043
2. 固定負債			
退職給付引当金	522,025,461	505,621,406	16,404,055
長期預り金	591,750	591,750	0
固定負債合計	522,617,211	506,213,156	16,404,055
負債合計	707,095,410	741,276,398	△ 34,180,988
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
広島市出資金	503,600,000	503,600,000	0
寄付金	3,031,518	2,013,719	1,017,799
指定正味財産合計	506,631,518	505,613,719	1,017,799
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(406,631,518)	(405,613,719)	(1,017,799)
2. 一般正味財産	△ 284,249,571	△ 294,616,848	10,367,277
(うち基本財産への充当額)	(12,000,000)	(12,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(42,296,997)	(40,973,143)	(1,323,854)
正味財産合計	222,381,947	210,996,871	11,385,076
負債及び正味財産合計	929,477,357	952,273,269	△ 22,795,912

2 貸借対照表内訳表

貸 借 対 照 表 内 訳 表

令和 5 年 3 月 3 1 日 現 在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	169,610,812	102,399,381	41,287,493		313,297,686
未収金	2,190,828	2,264,081			4,454,909
未収消費税等	528,857	64,101	1,124,010	△ 1,716,968	0
商品		8,380,147			8,380,147
流動資産合計	172,330,497	113,107,710	42,411,503	△ 1,716,968	326,132,742
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
投資有価証券	112,000,000				112,000,000
基本財産合計	112,000,000				112,000,000
(2) 特定資産					
緑化基金積立資産	413,634,328				413,634,328
広島市みどり生きものの協会基金積立資産	3,000,000				3,000,000
退職給付引当資産		37,622,689			37,622,689
減価償却引当資産	1,703,309	26,106,754			27,810,063
備品等購入資金積立資産		1,452,606			1,452,606
みどり生きものサポーター基金積立資産	3,031,518				3,031,518
特定資産合計	421,369,155	65,182,049			486,551,204
(3) その他固定資産					
建物		1,490,000			1,490,000
建物減価償却累計額		△ 1,489,998			△ 1,489,998
構築物		2,764,650			2,764,650
構築物減価償却累計額		△ 2,150,271			△ 2,150,271
車両運搬具	1,703,310	2,579,897			4,283,207
車両運搬具減価償却累計額	△ 1,703,309	△ 2,579,893			△ 4,283,202
器具備品	3,983,420	23,046,973			27,030,393
器具備品減価償却累計額	△ 3,071,844	△ 19,886,592			△ 22,958,436
電話加入権		74,984			74,984
投資有価証券	32,084				32,084
その他固定資産合計	943,661	3,849,750			4,793,411
固定資産合計	534,312,816	69,031,799			603,344,615
資産合計	706,643,313	182,139,509	42,411,503	△ 1,716,968	929,477,357
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	60,306,928	9,175,446	28,887,997		98,370,371
未払消費税等	30,133,512	5,769,056		△ 1,716,968	34,185,600
未払法人税等		221,000			221,000
前受金	46,000				46,000
買掛金		6,928,131			6,928,131
預り金	2,462,174	377,712	7,468,596		10,308,482
貸与引当金	29,624,686	2,227,473	2,566,456		34,418,615
流動負債合計	122,573,300	24,698,818	38,923,049	△ 1,716,968	184,478,199
2. 固定負債					
退職給付引当金	430,534,765	37,622,689	53,868,007		522,025,461
長期預り金	438,000	153,750			591,750
固定負債合計	430,972,765	37,776,439	53,868,007		522,617,211
負債合計	553,546,065	62,475,257	92,791,056	△ 1,716,968	707,095,410
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
広島市出資金	503,600,000				503,600,000
寄付金	3,031,518				3,031,518
指定正味財産合計	506,631,518				506,631,518
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)				(100,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(406,631,518)				(406,631,518)
2. 一般正味財産	△ 353,534,270	119,664,252	△ 50,379,553		△ 284,249,571
(うち基本財産への充当額)	(12,000,000)				(12,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(14,737,637)	(27,559,360)			(42,296,997)
正味財産合計	153,097,248	119,664,252	△ 50,379,553		222,381,947
負債及び正味財産合計	706,643,313	182,139,509	42,411,503	△ 1,716,968	929,477,357

3 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	119,018	100,250	18,768
基本財産受取利息振替額	991,799	835,418	156,381
特定資産運用益			
緑化基金受取利息	109,177	91,916	17,261
緑化基金受取利息振替額	3,677,705	3,363,392	314,313
協会賞基金受取利息	19,837	16,708	3,129
協会賞基金受取利息振替額	9,918	8,354	1,564
引当資産等受取利息	0	40,800	△ 40,800
受取会費			
会員受取会費	446,000	431,000	15,000
事業収益			
利用料金収益	237,136,090	162,097,770	75,038,320
指定管理料収益	1,162,724,225	1,153,167,750	9,556,475
維持補修業務等受託収益	919,816	919,805	11
保護増殖業務受託収益	159,000	340,500	△ 181,500
保護動物管理料収益	348,906	0	348,906
売店等売上収益	142,066,142	106,286,354	35,779,788
売店等事業収益	15,546,710	6,666,869	8,879,841
実費徴収金収益	3,139,391	1,908,741	1,230,650
手数料収益	49,708	63,753	△ 14,045
使用料収益	2,721,725	1,601,440	1,120,285
受取補助金等			
受取協会運営等補助金	93,033,911	159,079,915	△ 66,046,004
受取動物管理助成金	0	410,291	△ 410,291
受取動物保護活動等助成金	365,000	332,000	33,000
受取負担金			
受取負担金	431,150	263,550	167,600
受取寄付金			
受取寄付金	964,000	808,955	155,045
受取寄付金振替額	0	469,788	△ 469,788
受取協賛金			
受取協賛金	1,000,000	0	1,000,000
雑収益			
受取利息	55	61,204	△ 61,149
雑収益	2,231,472	3,210,121	△ 978,649
固定負債取崩益			
退職給付引当金取崩益	9,086,497	0	9,086,497
経常収益計	1,677,297,252	1,602,576,644	74,720,608

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(2) 経常費用			
事業費			
給料	245,621,100	232,149,859	13,471,241
諸手当	189,674,454	167,533,187	22,141,267
報酬	114,357,150	127,366,986	△ 13,009,836
賞与引当金繰入額	31,852,159	30,253,180	1,598,979
災害補償費	0	61,480	△ 61,480
賃金	82,496,313	67,301,600	15,194,713
退職給付費用	23,814,362	28,226,674	△ 4,412,312
福利厚生費	105,423,594	102,139,824	3,283,770
仕入費	64,305,701	49,517,745	14,787,956
食糧費	101,316	6,177	95,139
諸謝金	3,544,570	2,265,900	1,278,670
諸会費	859,215	764,285	94,930
報償費	448,851	550,703	△ 101,852
旅費	2,531,897	907,815	1,624,082
通信運搬費	2,018,836	2,648,485	△ 629,649
減価償却費	1,356,902	1,316,077	40,825
消耗品費	101,631,897	110,168,041	△ 8,536,144
器具備品購入費	7,234,280	7,879,362	△ 645,082
原材料費	912,268	1,020,898	△ 108,630
委託料	241,356,877	292,828,039	△ 51,471,162
修繕費	37,099,708	95,268,621	△ 58,168,913
燃料費	33,053,817	33,522,472	△ 468,655
光熱水費	181,662,910	168,841,825	12,821,085
支払手数料	1,525,671	1,918,412	△ 392,741
使用料及び賃借料	13,792,618	15,150,206	△ 1,357,588
保険料	2,171,117	1,973,009	198,108
租税公課	77,376,500	58,769,950	18,606,550
支払負担金	1,386,600	1,528,893	△ 142,293
支払補助金	814,900	843,100	△ 28,200
支払協賛金	20,000	0	20,000
広報費	2,039,849	295,925	1,743,924
雑費	159,741	60,400	99,341
棚卸減耗損	14,176	6,407	7,769
棚卸資産廃棄損	37,085	79,279	△ 42,194

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料	16,966,800	16,178,400	788,400
諸手当	10,355,439	9,874,219	481,220
報酬	14,577,785	14,492,766	85,019
賞与引当金繰入額	2,566,456	2,430,241	136,215
賃金	5,112,408	7,107,764	△ 1,995,356
退職給付費用	22,632,737	2,939,559	19,693,178
福利厚生費	8,244,018	8,467,704	△ 223,686
会議費	68,332	30,748	37,584
諸謝金	440,000	231,000	209,000
諸会費	203,480	200,480	3,000
報償費	4,048	4,048	0
旅費	48,160	0	48,160
通信運搬費	872,242	877,007	△ 4,765
消耗品費	897,432	926,012	△ 28,580
委託料	285,536	786,398	△ 500,862
支払手数料	110,867	97,930	12,937
使用料及び賃借料	11,763,013	11,821,439	△ 58,426
支払負担金	723,062	710,181	12,881
支払協賛金	40,000	40,000	0
雑費	100,726	0	100,726
経常費用計	1,666,708,975	1,680,380,712	△ 13,671,737
評価損益等調整前当期経常増減額	10,588,277	△ 77,804,068	88,392,345
当期経常増減額	10,588,277	△ 77,804,068	88,392,345
税引前当期一般正味財産増減額	10,588,277	△ 77,804,068	88,392,345
法人税、住民税及び事業税	221,000	271,000	△ 50,000
当期一般正味財産増減額	10,367,277	△ 78,075,068	88,442,345
一般正味財産期首残高	△ 294,616,848	△ 216,541,780	△ 78,075,068
一般正味財産期末残高	△ 284,249,571	△ 294,616,848	10,367,277

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	991,799	835,418	156,381
特定資産運用益			
緑化基金受取利息	3,677,705	3,363,392	314,313
協会賞基金受取利息	9,918	8,354	1,564
受取寄付金			
受取寄付金	1,017,799	439,050	578,749
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 4,679,422	△ 4,676,952	△ 2,470
当期指定正味財産増減額	1,017,799	△ 30,738	1,048,537
指定正味財産期首残高	505,613,719	505,644,457	△ 30,738
指定正味財産期末残高	506,631,518	505,613,719	1,017,799
Ⅲ 正味財産期末残高	222,381,947	210,996,871	11,385,076

4 正味財産増減計算書内訳表

正 味 財 産 増 減 計 算 書 内 訳 表
令 和 4 年 4 月 1 日 から 令 和 5 年 3 月 3 1 日 ま で

科 目	公 益 目 的 事 業 会 計				収 益 事 業 等 会 計			法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 (緑のまちづくり)	公2 (動物・植物・昆虫)	共通 (事業運営)	公益計	収1 (売店の運営など)	他1 (公園・公園施設)	収益等計			
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
基本財産運用益										
基本財産受取利息		119,018		119,018						119,018
基本財産受取利息振替額	99,182	892,617		991,799						991,799
特定資産運用益										
緑化基金受取利息	109,177			109,177						109,177
緑化基金受取利息振替額	3,677,705			3,677,705						3,677,705
協会賞基金受取利息	19,837			19,837						19,837
協会賞基金受取利息振替額	9,918			9,918						9,918
受取会費										
会員受取会費		446,000		446,000						446,000
事業収益										
利用料金収益		138,675,250		138,675,250		98,460,840	98,460,840			237,136,090
指定管理料収益		1,031,473,148		1,031,473,148		131,251,077	131,251,077			1,162,724,225
維持補修業務等受託収益		919,816		919,816						919,816
保護増殖業務受託収益		159,000		159,000						159,000
保護動物管理料収益		348,906		348,906						348,906
売店等売上収益					142,066,142		142,066,142			142,066,142
売店等事業収益					15,546,710		15,546,710			15,546,710
実費徴収金収益					3,139,391		3,139,391			3,139,391
手数料収益					49,708		49,708			49,708
使用料収益					2,721,725		2,721,725			2,721,725
受取補助金等										
受取協会運営等補助金								93,033,911		93,033,911
受取動物保護活動等助成金		365,000		365,000						365,000
受取負担金										
受取負担金	88,000	343,150		431,150						431,150
受取寄付金										
受取寄付金		964,000		964,000						964,000
受取協賛金										
受取協賛金		1,000,000		1,000,000						1,000,000
雑収益										
受取利息	55			55						55
雑収益	171,631	835,964		1,007,595	257,304	348,930	606,234	2,270,510	△ 1,652,867	2,231,472
退職給付引当金取崩益		9,086,497		9,086,497						9,086,497
経常収益計	4,175,505	1,185,628,366	0	1,189,803,871	163,780,980	230,060,847	393,841,827	95,304,421	△ 1,652,867	1,677,297,252

(単位:円)										
科 目	公 益 目 的 事 業 会 計				収 益 事 業 等 会 計			法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 (緑のまちづくり)	公2 (動物・植物・昆虫)	共通 (事業運営)	公益計	収1 (売店の運営など)	他1 (公園・公園施設)	収益等計			
(2) 経常費用										
事業費										
給料		230,071,500		230,071,500	15,549,600		15,549,600			245,621,100
諸手当		174,542,853	6,267,827	180,810,680	8,025,112	838,662	8,863,774			189,674,454
報酬	2,047,883	89,714,779		91,762,662	9,882,656	12,711,832	22,594,488			114,357,150
賞与引当金繰入額		28,980,805	643,881	29,624,686	1,806,835	420,638	2,227,473			31,852,159
賃金		58,073,710		58,073,710	16,194,604	8,227,999	24,422,603			82,496,313
退職給付費用		22,302,422		22,302,422	1,511,940		1,511,940			23,814,362
福利厚生費	313,564	91,738,160	2,893,206	94,944,930	6,335,256	4,143,408	10,478,664			105,423,594
仕入費					64,305,701		64,305,701			64,305,701
食糧費		101,316		101,316						101,316
諸謝金	646,350	2,873,420		3,519,770		24,800	24,800			3,544,570
諸会費		852,215		852,215	7,000		7,000			859,215
報償費	50,000	398,851		448,851						448,851
旅費		2,434,797		2,434,797	97,100		97,100			2,531,897
通信運搬費	67,684	1,817,546		1,885,230	61,330	72,276	133,606			2,018,836
減価償却費		33,048		33,048	1,323,854		1,323,854			1,356,902
消耗品費	1,025,908	98,396,653	25,000	99,447,561	1,553,963	630,373	2,184,336			101,631,897
器具備品購入費		7,234,280		7,234,280						7,234,280
原材料費		912,268		912,268						912,268
委託料		117,587,471		117,587,471	1,725,899	122,043,507	123,769,406			241,356,877
修繕費		31,830,190	54,450	31,884,640	670,526	4,544,542	5,215,068			37,099,708
燃料費		32,982,692	20,553	33,003,245		50,572	50,572			33,053,817
光熱水費		139,448,504		139,448,504	6,949,982	35,264,424	42,214,406			181,662,910
支払手数料	26,389	1,244,950	1,600	1,272,939	225,985	26,747	252,732			1,525,671
使用料及び賃借料		9,937,493	520	9,938,013	2,834,905	1,019,700	3,854,605			13,792,618
保険料		1,054,466	35,340	1,089,806	251,921	829,390	1,081,311			2,171,117
租税公課		65,405,026	72,700	65,477,726	7,642,444	5,909,197	13,551,641		△ 1,652,867	77,376,500
支払負担金	600,000	751,340		1,351,340	35,260		35,260			1,386,600
支払補助金	814,900			814,900						814,900
支払協賛金		20,000		20,000						20,000
広報費		2,010,892		2,010,892	28,957		28,957			2,039,849
雑費		6,252		6,252	153,489		153,489			159,741
棚卸減耗損					14,176		14,176			14,176
棚卸資産廃棄損					37,085		37,085			37,085

(単位:円)										
科 目	公 益 目 的 事 業 会 計				収 益 事 業 等 会 計			法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 (緑のまちづくり)	公2 (動物・植物・昆虫)	共通 (事業運営)	公益計	収1 (売店の運営など)	他1 (公園・公園施設)	収益等計			
管理費										
給料								16,966,800		16,966,800
諸手当								10,355,439		10,355,439
報酬								14,577,785		14,577,785
賞与引当金繰入額								2,566,456		2,566,456
賃金								5,112,408		5,112,408
退職給付費用								22,632,737		22,632,737
福利厚生費								8,244,018		8,244,018
会議費								68,332		68,332
諸謝金								440,000		440,000
諸会費								203,480		203,480
報償費								4,048		4,048
旅費								48,160		48,160
通信運搬費								872,242		872,242
消耗品費								897,432		897,432
委託料								285,536		285,536
支払手数料								110,867		110,867
使用料及び賃借料								11,763,013		11,763,013
支払負担金								723,062		723,062
支払協賛金								40,000		40,000
雑費								100,726		100,726
経常費用計	5,592,678	1,212,757,899	10,015,077	1,228,365,654	147,225,580	196,758,067	343,983,647	96,012,541	△ 1,652,867	1,666,708,975
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,417,173	△ 27,129,533	△ 10,015,077	△ 38,561,783	16,555,400	33,302,780	49,858,180	△ 708,120		10,588,277
当期経常増減額	△ 1,417,173	△ 27,129,533	△ 10,015,077	△ 38,561,783	16,555,400	33,302,780	49,858,180	△ 708,120		10,588,277
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 1,417,173	△ 27,129,533	△ 10,015,077	△ 38,561,783	16,555,400	33,302,780	49,858,180	△ 708,120		10,588,277
他会計振替額	595,939	27,709,545	10,028,760	38,334,244	△ 12,112,423	△ 26,221,821	△ 38,334,244	0		0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 821,234	580,012	13,683	△ 227,539	4,442,977	7,080,959	11,523,936	△ 708,120		10,588,277
法人税、住民税及び事業税					221,000		221,000			221,000
当期一般正味財産増減額	△ 821,234	580,012	13,683	△ 227,539	4,221,977	7,080,959	11,302,936	△ 708,120		10,367,277
一般正味財産期首残高	64,622,877	△ 419,925,389	1,995,781	△ 353,306,731	113,677,756	△ 5,316,440	108,361,316	△ 49,671,433		△ 294,616,848
一般正味財産期末残高	63,801,643	△ 419,345,377	2,009,464	△ 353,534,270	117,899,733	1,764,519	119,664,252	△ 50,379,553		△ 284,249,571

(単位:円)

科 目	公 益 目 的 事 業 会 計				収 益 事 業 等 会 計			法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 (緑のまちづくり)	公2 (動物・植物・昆虫)	共通 (事業運営)	公益計	収1 (売店の運営など)	他1 (公園・公園施設)	収益等計			
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
基本財産運用益										
基本財産受取利息	99,182	892,617		991,799						991,799
特定資産運用益										
緑化基金受取利息	3,677,705			3,677,705						3,677,705
協会賞基金受取利息	9,918			9,918						9,918
受取寄付金										
受取寄付金		1,017,799		1,017,799						1,017,799
一般正味財産への振替額										
一般正味財産への振替額	△ 3,786,805	△ 892,617		△ 4,679,422						△ 4,679,422
当期指定正味財産増減額		1,017,799		1,017,799						1,017,799
指定正味財産期首残高	413,600,000	92,013,719		505,613,719						505,613,719
指定正味財産期末残高	413,600,000	93,031,518		506,631,518						506,631,518
Ⅲ 正味財産期末残高	477,401,643	△ 326,313,859	2,009,464	153,097,248	117,899,733	1,764,519	119,664,252	△ 50,379,553		222,381,947

5 財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・取得価格による原価法によっている。

なお、取得価格と債券金額との差異(償還差額)について重要性が乏しいことから、当期末より、評価方法を償却原価法(定額法)から原価法に変更している。

この変更により、従来の方と比べて、(受取利息が129,742円減少し、)当期経常増減額及び当期一般正味財産増減額がそれぞれ129,742円減少している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品・・・・・・・・・・先入先出法による原価法によっている。(時価が取得価額よりも下落した場合には、時価をもって貸借対照表価額とする。)

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法によっている。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・・・・・・債権については回収可能性に問題がないため、貸倒引当金は計上していない。

賞与引当金・・・・・・・・職員の賞与の支払いに備えて、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上している。

退職給付引当金・・・・・・職員の退職給付に備えるため、期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	112,000,000	—	—	112,000,000
小 計	112,000,000	—	—	112,000,000
特定資産				
緑化基金積立資産	413,634,328	—	—	413,634,328
広島市みどり生きもの協会賞基金積立資産	3,000,000	—	—	3,000,000
退職給付引当資産	36,326,749	1,295,940	—	37,622,689
減価償却引当資産	26,486,209	1,323,854	—	27,810,063
備品等購入資金積立資産	1,452,606	—	—	1,452,606
みどり生きものサポーター募金積立資産	2,013,719	1,017,799	—	3,031,518
小 計	482,913,611	3,637,593	—	486,551,204
合 計	594,913,611	3,637,593	—	598,551,204

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
投資有価証券	112,000,000	(100,000,000)	(12,000,000)	(—)
小 計	112,000,000	(100,000,000)	(12,000,000)	(—)
特定資産				
緑化基金積立資産	413,634,328	(402,600,000)	(11,034,328)	(—)
広島市みどり生きもの協会賞基金積立資産	3,000,000	(1,000,000)	(2,000,000)	(—)
退職給付引当資産	37,622,689	(—)	(—)	(37,622,689)
減価償却引当資産	27,810,063	(0)	(27,810,063)	(—)
備品等購入資金積立資産	1,452,606	(0)	(1,452,606)	(—)
みどり生きものサポーター募金積立資産	3,031,518	(3,031,518)	(0)	(—)
小 計	486,551,204	(406,631,518)	(42,296,997)	(37,622,689)
合 計	598,551,204	(506,631,518)	(54,296,997)	(37,622,689)

4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
第 1 8 2 回利付国債	328,666,412	345,369,840	16,703,428
第 4 8 3 回大阪府公募公債 (SMBC)	100,000,000	101,470,000	1,470,000
第 4 8 3 回大阪府公募公債 (岡三)	100,000,000	101,290,000	1,290,000
合 計	528,666,412	548,129,840	19,463,428

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
補助金 受取協会運営等補助金 (広島市補助金)	広島市	0	93,033,911	93,033,911	0	—
助成金 受取動物保護活動等助成金	(公社)日本動物園水族館協会	0	365,000	365,000	0	—
合 計		0	93,398,911	93,398,911	0	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息の振替額	991,799
特定資産受取利息の振替額	3,687,623
合 計	4,679,422

7. 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引内容は、次のとおりである。

(単位：円)

属 性	法 人 等 の 名 称	住 所	資 産 の 総 額	事 業 の 内 容 又 は 職 業	議 決 権 の 所 有 割 合	関 係 内 容		取引の内容	取引金額	科目	期末 残高
						役員の兼務等	事業上の関係				
当 法 人 を 支 配 す る 法 人	広 島 市	広 島 市 中 区	—	—	—	理事 1 4 名 中 市職員 2 名 元市職員 4 名	市公共事業の受託	広島市の公園及び公園施設の指定管理	1,162,724,225	—	0
								広島市の公園及び公園施設の維持補修等	919,816	—	0
							協会事業に対する補助	協会運営事業に対する補助	93,033,911	—	0

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

剰余金が生じた場合において、指定管理については指定管理期間満了時に精算を行い返還することとし、受託及び補助については毎年度精算を行い返還することとしている。

6 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記の「2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」において記載しているため省略する。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	32,683,421	34,418,615	32,683,421	－	34,418,615
退職給付引当金	505,621,406	36,904,602	20,500,547	－	522,025,461

財 産 目 録

令和5年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額			
(流動資産)							
	現金	手元保管	運転資金として	11,020,632			
	預金	普通預金	運転資金として				
		広島銀行本店営業部		110,499,668			
		広島銀行安支店		87,892,613			
		広島銀行五日市八幡支店		79,183,974			
		広島銀行福田支店		24,437,984			
		振替口座	運転資金として				
	ゆうちょ銀行日浦郵便局		262,815				
未収金	売店業務等委託先業者ほか	販売手数料等	4,454,909				
商品	オリジナルグッズ他	来園者等への販売用	8,380,147				
流動資産合計				326,132,742			
(固定資産)							
基本財産	投資有価証券	第182回利付国債	公益目的保有財産であり、満期保有目的で保有し、運用益のうち91.1%は動物公園等の運営事業、8.9%は緑のまちづくり事業の財源として使用している。	112,000,000			
特定資産	緑化基金積立資産	投資有価証券	公益目的保有財産であり、満期保有目的で保有し、運用益を緑のまちづくり事業の財源として使用している。	213,634,328			
		第182回利付国債					
		第483回大阪府公募公債					
	広島市みどり生きもの協会賞基金積立資産	投資有価証券	同上	200,000,000			
		第182回利付国債					
	退職給付引当資産	普通預金	公益目的保有財産であり、満期保有目的で保有し、運用益を緑のまちづくり事業の財源として使用している。	3,000,000			
		広島銀行本店営業部					
	減価償却引当資産	広島銀行安支店	収益事業従事職員に対する退職金の支払いに備え管理している預金	36,326,749			
		普通預金					
		広島銀行本店営業部			同上	1,295,940	
		広島銀行安支店					
	備品等購入資金積立資産	広島銀行五日市八幡支店	器具備品等の更新に備え管理している預金	26,621,479			
		普通預金					
		広島銀行本店営業部			同上	611,390	
		広島銀行安支店					
	その他固定資産	みどり生きものサポーター募金積立資産	広島銀行五日市八幡支店	同上	577,194		
			普通預金				
			広島銀行本店営業部			器具備品等の取得に備え管理している預金	1,452,606
			普通預金				
建物		普通預金	魅力ある施設づくりのための寄付金を管理している預金	2,667,924			
		広島銀行安支店					
		広島銀行五日市八幡支店			同上	117,111	
		広島銀行福田支店					
		構築物			同上	246,483	
車両運搬具	植物公園 温室及び倉庫 62.3㎡	収益事業における販売用植物の展示・保管用	2				
	安佐動物公園 仮設売店 9.7㎡	収益事業における飲食物販売用	614,379				
器具備品	普通乗用車 1台	公益目的保有財産であり、公益目的事業共通の用に供している。	1				
	小型貨物等 2台、スクーター 2台	収益事業用車両運搬具	4				
	デジタルカメラ等 21点	公益目的保有財産であり、動物公園等の運営事業の用に供している。	911,576				
	冷蔵庫等 82点	収益事業用器具備品	3,160,381				
	電話加入権	安佐動物公園 管理事務所	収益事業に係る電話回線（1回線）	74,984			
	投資有価証券	第182回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を緑のまちづくり事業等の財源として使用している。	32,084			
固定資産合計				603,344,615			
資産合計				929,477,357			

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金	維持管理業務等委託先業者ほか	委託料等の未払額	98,370,371
	未払消費税等	広島東税務署	令和4年度消費税及び地方消費税の未払額	34,185,600
	未払法人税等	広島東税務署	令和4年度法人税等の未払額	221,000
	前受金	広島動物愛好会等会員	令和5年度分前受会費	46,000
	買掛金	商品仕入先業者	売店等における商品仕入れの買掛額	6,928,131
	預り金	広島東税務署、厚生労働省年金局、広島市等	源泉所得税、健康保険料及び厚生年金保険料、住民税等	10,308,482
	賞与引当金	職員に対するもの	職員112名に対する賞与の支払いに備えたもの	34,418,615
流動負債合計				184,478,199
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員66名に対する退職金の支払いに備えたもの	522,025,461
	長期預り金	維持管理業務等委託先業者	契約保証金	591,750
固定負債合計				522,617,211
負債合計				707,095,410
正味財産				222,381,947

監 査 報 告 書

令和5年5月16日

公益財団法人広島市みどり生きもの協会
理 事 長 堀 敬 輔 様

公益財団法人広島市みどり生きもの協会

監 事 神 田 敏 治

公益財団法人広島市みどり生きもの協会

監 事 田 口 依久夫

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実
は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上